

多可町の版木



2013年3月

兵庫県多可町文化遺産活性化実行委員会

多可町の版木

牛王
船荷大明神
寺玉下

牛王
楊柳寺
寶印

牛王
西光寺
寶印

牛王
莊嚴寺
寶印

牛王
藥師架
寶印

牛王
藥師架
寶印

牛王
満願寺
寶印

牛王
金蔵山
寶印

平成二十五年三月

多可町文化遺産活性化
実行委員会

例 言

1. 本書は、文化庁の文化遺産を活かした観光振興・地域活性化事業により実施された、兵庫県多可郡多可町内の寺社等で保管されている版木の悉皆調査報告書である。
2. 調査は多可町文化遺産活性化実行委員会が、町内の寺社及びお堂等を管理している団体等に調査票を発送し、その成果を基礎として、保管されている版木を借用して実施した。
3. 調査に際して、多可町伝統文化調査委員会（小栗栖健治、埴岡真弓、宮崎和明、本林靖久）の教示を得た。
4. 版木確認調査及び整理調査は、宮原文隆が中心となり、小東憲朗、早崎喜代美、松田優子、安平千恵美、吉田衣里が補佐した。
5. 本書記載の版木拓本の縮尺は、1/4を基本としているが、一部1/3、1/2としているものもある。この場合、版木番号の際の（ ）内に縮尺を記している。また、版木がゴム版や真鍮版のものは（ゴム）・（真鍮）と記している。
6. 採取した拓本は、原則として鏡像反転して、見やすいよう便宜を図った。また、版木説明での右・左等の表現は、本報告に掲載した拓本を基準としており、現物とは左右逆となっている。
7. 本書は、宮原、早崎、松田が執筆し、宮原が編集した。版木の翻字は早崎、拓本採取は松田が行った。
8. 本書にかかる拓本・写真等の資料は、兵庫県多可郡多可町中区東山539-3 那珂ふれあい館で保管している。

本調査及び整理作業に際して多くの方々・地区・寺社等にお世話になった。以下、芳名を記して謝意を表したい。（敬称略）

井村正身、岩本与志和、宇田義道、大塚貫哲、岡本一士、岡本文穂、小栗栖健治、近藤恵祐、近藤寛隆、佐藤俊樹、清水谷善道、関 淳道、高田玄明、高原 享、田中直邦、東野正明、内藤勝彦、難波正司、埴岡真弓、宮崎和明、本林靖久、森本宥紹、山崎淳道、山本義樹、吉田明生、

岩座神地区、上三原地区、熊野部地区、仕出原地区、棚釜地区、西山地区、丹治地区、寺内地区、轟地区、中野間川西地区、東安田地区、門前地区、山野部地区、田野口地区、

天田 量興寺、奥中 観音寺、田野口 清水寺、東安田 善光寺、西安田 円満寺、鍛冶屋 大歳金刀比羅神社、安坂 鳳凰寺、中安田 稻荷神社、糝屋 稻荷神社、門前 八幡神社、

清水 雲門寺、西山 観音堂、轟 虚空蔵堂、丹治 日光寺、多田 諦願寺、多田 林松寺、棚釜 広峰神社、門村 浄居寺、豊部 極楽寺、的場 金蔵寺、的場 蓮華寺、寺内 地藏堂、寺内 神宮寺、寺内 妙見堂、岩座神 神光寺、山野部 常楽寺、熊野部 稻荷神社、的場 荒田神社、

中村 安海寺、上三原 毘沙門堂、中野間 極楽寺、柳山寺 楊柳寺、仕出原 薬師堂、中野間 八幡神社

目 次

例 言

目 次

1. はじめに

- 1. 版木の調査…………… 1
- 2. 調査の方法…………… 1

2. 版木保管の寺社と版木

- ①田野口 清水寺、②天田 量興寺、③奥中 観音寺…………… 2
- ④東安田 善光寺、⑤西安田 円満寺…………… 3
- ⑥鍛冶屋 大歳金刀比羅神社、⑦安坂 鳳凰寺、⑧中安田 稻荷神社…………… 4
- ⑨糝屋 稻荷神社、⑩門前 八幡神社、⑪清水 雲門寺…………… 5
- ⑫西山 観音堂、⑬轟 虚空蔵堂、⑭丹治 日光寺…………… 6
- ⑮多田 諦願寺、⑯多田 林松寺、⑰門村 浄居寺…………… 7
- ⑱豊部 極楽寺、⑲的場 金蔵寺…………… 8
- ⑳的場 蓮華寺、㉑寺内 神宮寺、㉒寺内 妙見堂…………… 9
- ㉓岩座神 神光寺、㉔山野部 常楽寺、㉕熊野部 稻荷神社…………… 10
- ㉖的場 荒田神社、㉗中村 安海寺…………… 11
- ㉘上三原 毘沙門堂、㉙中野間 極楽寺、㉚柳山寺 楊柳寺…………… 12
- ㉛仕出原 薬師堂、㉜中野間 八幡神社…………… 13
- ㉝加古川市 尾上神社…………… 14

3. 版木と護符－民俗行事から－

- 1. 牛玉寶印と民俗行事…………… 15
- 2. 大般若経（転読）祈禱札と民俗行事…………… 18
- 版木等保管の寺社位置図…………… 20

4. 版木調査成果とまとめ…………… 22

版木図版

版木データ一覧表

翻字

版木図版目次

- 版木図版1 田野口 清水寺1、天田 量興寺1～8
- 版木図版2 天田 量興寺9・10、奥中 観音寺1・2、東安田 善光寺1
- 版木図版3 西安田 円満寺1～10
- 版木図版4 西安田 円満寺11
- 版木図版5 西安田 円満寺12～15
- 版木図版6 西安田 円満寺16・17、鍛冶屋 大歳金刀比羅神社1～13
- 版木図版7 安坂 鳳凰寺1～5、中安田 稻荷神社1～15
- 版木図版8 糝屋 稻荷神社1～10、門前 八幡神社1・2
- 版木図版9 清水 雲門寺1、西山 観音堂1、轟 虚空蔵堂1・2、丹治 日光寺1～3、
多田 諦願寺1、多田 林松寺1
- 版木図版10 門村 浄居寺1～11
- 版木図版11 門村 浄居寺12、豊部 極楽寺1～9
- 版木図版12 豊部 極楽寺10～13
- 版木図版13 豊部 極楽寺14～17
- 版木図版14 豊部 極楽寺18～21
- 版木図版15 豊部 極楽寺22～25
- 版木図版16 豊部 極楽寺26、の場 金蔵寺1～9
- 版木図版17 の場 金蔵寺10・11
- 版木図版18 の場 金蔵寺12・13、の場 蓮華寺1～4
- 版木図版19 寺内 神宮寺1～4、寺内 妙見堂1、岩座神 神光寺1・2、
山野部 常楽寺1～8
- 版木図版20 山野部 常楽寺9～14、熊野部 稻荷神社1・2、の場 荒田神社1～6
- 版木図版21 中村 安海寺1～15
- 版木図版22 中村 安海寺16、上三原 毘沙門堂1～5、中野間 極楽寺1～3
- 版木図版23 柳山寺 楊柳寺1～6、仕出原 薬師堂1・2
- 版木図版24 中野間 八幡神社1・2、加古川市 尾上神社1・2

1. はじめに

1. 版木の調査

近年、護符（お札）に関する研究が活性化を帯びている。平成22年に刊行された『日本の護符文化』は、現在における歴史資料としての護符の研究成果を総括したものであろう。

この報告で述べられているように、護符には資料的な制約が非常に大きい。その理由として、護符が毎年更新される性質をもつという点と、専門業者の印刷による大量生産により多様性が失われつつある点が提示されている。

当報告者はもう一つ、年中行事の形骸化・風化を付け加えておきたい。多くの護符は、年中行事の中で、関係者や参加者に配布される場合が多い。その年中行事の簡略化とともに、行事自体が執り行われなくなる事によって、護符の発行が終息する。行事が決められた一定の順序で流れ作業のように行われることになり、年中行事の意味や性格が参加者に認識されなくなる。行事の本来の意味が認識されなくなると、行事内での護符自体の役割も忘れられ、護符の配布が終息する方向に進むこととなる。最終的には、護符とそれを刷るための版木の存在が忘却されているように思われる。

こうした障害を乗り越えるために、1. 海外に流出した護符や起請文に用いられた牛玉寶印等の古い護符の収集、2. 中近世の絵画資料に描かれた護符の調査、3. 寺社に残されている版木の調査の3点の調査方法が示されている。第1、2の調査はこれまでもなされており、飛躍的な資料の増加はあまり見込めないのではないだろうか。この中では最も注目されるのが、第3の護符を発行するために刻まれた版木の調査であり、新たな資料の増加が期待されている。

2. 調査の方法

(1). 調査はまず、寺院・神社に直接版木の有無の調査票を送付し、版木が保管されているか。そして保管されている場合には、その点数等を把握することを努めた。なお、無住の寺院やお堂、神主不在の神社には、管理している地区に確認を依頼した。しかしながら管理する地区代表者には、版木の有無がほとんど知られていない状態にある為、直接出向き探索を実施した。

(2). 版木の有無が把握できると、版木を借用し、現物調査を実施した。

- 1) 版木の清掃。ほとんどの版木はその役目を終えていたため、倉等で保管されホコリにまみれている。
- 2) 版木の採拓、調査票の記入。ノミ跡や補修跡をも意識して拓本を採る。
- 3) 版木の写真撮影。版木は墨によりまっ黒になっている。このため光の角度を調整しながら、版面がシャープに見えるよう写真撮影を実施。
- 4) 版木での版刷り。版木で奉書紙に護符等を刷り上げる。
- 5) 返却のための包装。新聞紙に包み、採拓した拓本のコピーを付ける。
- 6) 拓本や写真をまとめた調査成果票（一部翻字データ含む）とともに版木の返却。

2. 版木保管寺社と版木

①^{せいすいじ}清水寺（山号 梅峯山、臨濟宗）中區^{たのくち}田野口



一帯はいやしの森公園として、名越神社とともに整備されている。開基は明らかでないが、門前の瑞光寺との関係があるものとされる。本尊は観世音菩薩と地藏菩薩である。堂の周囲の墓石から、江戸時代後期には尼寺として機能していたことを窺うことができる。

版木（図版1）は1点残されており、両面を版面としている。

②^{りょうこうじ}量興寺（山号 高寺山、真言宗）中區^{あまた}天田



古代寺院多哥寺の法灯を継ぐ古刹で、境内には径3m近い巨大な塔心礎が残され、往時を偲ぶことができる。平安時代中頃に衰微するものの、平安時代後期には九条家によって再興され、近世初頭の良遍上人による中興を経て現在に至る。本尊

は薬師如来である。

正月10日前後の日曜日に、本堂にて薬師当が執り行われ、村人の額に赤土が押され、ハゼウルシに挟まれた牛玉杖（ゴウヅイ）が配られる。



薬師当

版木（図版1・2）は10点12面残されている。1～4は祈祷札で、3の裏面には「享保十七年（1732）」の墨書がある。光明真言の5の右側面には、「明和四年（1767）」の墨書がある。菅原道真と推定される絵像8は2色刷りで、^{うんげん}縹綯縁の部分には朱墨が遺存している。ただし、量興寺及び隣接する加都良神社では、現在天神は祀られていない。10裏の玄雲の刷り面にも朱墨が遺存している。

③^{くわんおんじ}観音寺（山号 福玉山、真言宗）中區奥中
神亀二年（725）、法道仙人（行基とも）開基と



伝えられ、本尊は十一面観世音菩薩である。日を限って礼拝祈願すれば必ず願いが叶うという「日限り地蔵」は有名で、多くの人から信仰されている。また、境内の自然石を加工した石灯籠は、安政三年（1856）銘を有する多可町最古の歌碑である。

2点の版木（図版2）が残されており、1は牛玉寶印で宝珠をうまく字体の中に取り込んでいる。現在も奥中の村総会で刷られて、配布されている。2は量興寺の牛玉寶印^{ごおうほういん}をゴムで複製したものである。



水口の牛玉寶印

④善光寺（山号 医王山、臨濟宗妙心寺派）

中区東安田

ほうどうじ
法幢寺の大愚宗築和尚の中興で、創建は不明であるが、旧善光寺跡地で採集された土器から平安時代前半に遡ると考えられる。本尊とされる阿弥陀如来は平安時代中期、薬師堂に安置されている。薬師如来は平安時代後期の作である。

薬師堂前には、兵庫県指定天然記念物の大いぶ



きが存在する。伝えるところによれば、約400年前明智光秀が善光寺を攻め薬師堂に火を放ったが、どうしても燃えない薬師如来に怒って突き立てた杖がイブキとなったという。

版木（図版2）は1点で、上方の呪符は嵌め込み式で補填されている。下部にも嵌め込み式で「善光寺」が補填されるが、もう一方は欠損する。医王山という山号が彫られていたものと推定される。なお、現在善光寺には大般若経は残されていない。

⑤円満寺（山号 吉祥山、真言宗）中区西安田



大化五年（649）法道仙人開基で、その後大永年中（1521～1528）に焼失したと伝える。慶長十四年（1609）に中興の祖である明覚上人が、姫路城の妖魔を調伏し、城主池田三左衛門輝政の信頼を得て、寺領の寄進を受け隆盛を誇った。本尊は薬師如来で明覚上人造立と伝えられている。旧本堂裏には、「乳薬師の大イチョウ」と呼ばれ母乳の出をよくすると信仰されている大イチョウがある。

版木(図版3～6)は17点で20面残されている。7の大般若経転読祈祷札が残されているが、当寺の大般若経は明治時代中頃に失われている。10の薬師如来立像には、4カ所に埋木が確認できる。また裏面にはヤリガンナによる調整痕を看取できることから、時期的に中世に遡る可能性を有する版木である。11の円満寺縁起は、明覚上人による中興以降の縁起が記され、姫路藩主池田輝政に取り憑いた魔障を祈祷調伏し取り除いた話が中心となっている。15・16の常光明真言講録は、文政四年(1821)に光明真言講への参加を呼びかける版木である。33年に一度、本尊薬師如来像が開帳された時に刷られていたのは17の版木である。

⑥大歳金刀比羅神社 中区鍛冶屋



大歳神社が村社として維持されていたが、藤井孫右衛門により寛政六年(1794)に讃岐琴平宮より勧請された金刀比羅神社を明治四十四年(1911)に合祀し、大歳金刀比羅神社となった。11月22～24日に執り行われる金刀比羅神社例祭は盛大に催され、播磨国三大祭の一つと称されている。

12月31日の大晦日には、煎って搗いた焼米を藁つとに入れて、神社におさめる「すずめのもん」のオトウ行事が執り行われている。

版木(図版6)は13点残されている。1の祈祷札は現在も地鎮祭に供されるほか、問子の当人に配布され、おはげに付されて神の依り代となっている。6～13は護符の内符で、スタンプタイプの版木である。

⑦鳳凰寺(山号 永坂山、天台宗) 中区安坂^{あさか}



白雉年間(650～654)、法道仙人開基と伝え、創建期は糍屋新田の長坂山に位置していたとされる。天正年間に兵火を被り、現在の地に移り小堂一字で法灯を引き継いでいたが、貞享年中(1684～1688)に円遵和尚によって中興された。本尊は観世音菩薩である。

5点の版木(図版7)が残されているが、現在使用されている護符はない。5の不動明王札は不動明王種子の下に、長い髭を蓄え、中国的な衣装で剣を持ち、大きな眼で何かを睨みつけた鍾馗と考えられる絵像、最下部に五芒星が配されている。密教・道教・陰陽道を代表するものとして取り上げ、魔除けの効験あらたかな護符として配布されていたのであろう。

⑧稻荷神社 中区中安田



創立年代は不詳。当初西安田の「イヤガ谷」にあったが、墓地に近いことから暦応三年(1340)「長石ヶ谷(現「宮が谷」)」に遷座するものの、

元和三年（1617）に社殿炎上したため、中安田の現在地に再建されたと伝える。祭神は大国主命、うがのみたまのみこと たけみかづちのみこと稲倉魂命、武甕槌命で、氏子は安田郷西安田・中安田・東安田と西脇市羽安町である。

秋祭りにオトウ渡しがあるが、特に西安田では「イヤガ谷」から「宮が谷」への遷宮の故事に係る「丑の刻参り」が行われる。

版木（図版7）は角印を含め15点残されている。1の祈祷札の右上は、見当として彫り残されている。3・8・10・15はゴム印で、前番号の版木の代替物である。

⑨稲荷神社 中区糶屋こうじや



かつては安田庄五ヶ郷の鎮守社で、現在は糶屋、曾我井、安坂、森本、坂本地区が氏子となっている。創建は推古天皇二年（594）とされ、わかうかめのみこと うけもちのみこと稻耆魂命、若宇賀売命、保食命が祭神である。徳川2代将軍秀忠とお江の間に生まれた千姫の長女、勝姫の安産祈願の神社としても著名である。慶長年間に姫路城主池田輝政により社領を寄進され、その後徳川家光により御朱印地とされ、代々安堵を受けた。3月の初午の日には弓射神事が執り行われる。かつて法道仙人開基とされる延命寺が神宮寺として存在していた。

版木（図版8）は10点残されている。現在使用されている護符は、ゴム印若しくは印刷物で版木は使用されていない。3の当勝神社守護札は、中区坂本の二社神社の二十三（にじゅうそう）の祭りで配布され、4の八幡神社守護札は中区坂本・

門村・杉原の厄除け大祭で配布されている。5の荒神社守護札と7の稲荷神社開運守護札は、正月に配布されている。9稲荷神社と10天神社守護札は剣先形護符の版木で、9は左上をカギ括弧状に彫り残し見当とし、10は別材を斜めに打ち付け剣先形に転用している。

⑩八幡神社 中区門前もんぜん



元弘二年（1332）の創建と伝えるずいこうじ瑞光寺の鎮守として勸請された。祭神はほんだわけのみこと品太和氣命。毎年1月第2日曜日に開催される厄除け大祭には、多くの人が参拝する。

9月第2日曜日にはオトウ渡しが執り行われる。神事中に子どもが、鳥居と拜殿の間の渡御を繰り返し、直会では線香を灯した膳に米粉・味噌を添えてまわすという特徴的なオトウ渡しである。また10月には、神社でお日待ち行事が行われている。

版木（図版8）は2点残されており、いずれも禱人が保管するお禱状箱内に納められている。現在は使用されていないが、かつては1月の厄除け大祭に刷られて配布されていたものと思われる。1は「八幡宮」の上の「正」が削り取られ、木釘が打たれている。1・2とも裏面に「卜部」の刻印がある。

⑪雲門寺（山号 避船山、臨済宗妙心寺派）うんもんじ

加美区清水きよみず

開基は明らかでないが、応永八年（1401）奥山



地蔵近くの雲門と号する古刹に、天寧寺の中興開山であり、日本禅宗二十四流の一人である愚中周及和尚が景德庵を構えたことが中興のきっかけとされる。その後、寺は杉原川東岸に移り、江戸時代に現在の地に落ち着いたとされる。本尊は十一面観世音菩薩。江戸時代末に作庭された池泉鑑賞式庭園が見事である。

版木（図版9）は1点で一部にゴム版の「加美町清水」が埋め込まれて、裏面には「明治三十八年（1905）」の墨書銘が確認できる。現在は印刷札が、8月23日頃の奥山地蔵祭りで配布されている。

⑫観音堂 加美区西山



西山には、かつて荘厳寺と正蔵寺の二寺が存在していた。荘厳寺は廃寺となり、その什物は正蔵寺の観音堂に移されている。観音堂の本尊は千手観音菩薩で、4年に一度開帳されている。

版木（図版9）は牛玉寶印1点が残され、中央に「荘厳寺」と彫刻されている。多可郡誌によると、薬師堂では正月に門村より猿樂を招き、護符

や村人の額に赤土を塗る「赤土當」があったことが記されており、牛玉寶印版木に記されている荘厳寺の薬師堂と考えられる。

⑬虚空蔵堂 加美区轟^{とどろき}



応永八年（1401）に、雲門寺開基の愚中大和尚が守り寺「妙寿庵」を建てたことに始まり、「妙徳山明寿寺」と呼ばれていたと伝えられる。本尊は虚空蔵菩薩。国道より西の高台にあり、見晴らしが良く向かいのラベンダー園の一部を望むことができる。

年2回の数珠繰りには「おたま」と呼ばれる紅白のお団子が作られ、安産に効くといわれる。

版木（図版9）は2点残されており、1の祈祷札の「正蔵寺」は西山の現観音堂を指すのもので、両寺の関係を推し量る資料となろう。裏面に「明治拾三年（1880）辰春 大山白位 大山白位」の墨書がある。2の祈祷札は轟・山口・西山3ヶ村の氏神である河上神社の神官「河上左近」と彫刻されている。また、「河」の三水偏に、埋込による後補が看取できる。

⑭日光寺（山号 紫雲山、臨濟宗妙心寺派）

加美区丹治^{たんじ}

法道仙人開基と伝えられ、かつては字小屋場山に位置していたが元禄年間に現在の地に移ったとされる。

平成二年に復活した1月の文殊まつりは盛大に執り行われ、「知恵の輪」くぐりや絵馬や護符は



入試時期と相まって人気が高く、近隣の学生がこぞってお参りする。

版木（図版9）は2点残されており、1は淡島大明神守護札で、現在淡島大明神は氏神の大歳神社に合祀されている。2の文殊菩薩絵像は、現在は印刷されて文殊まつり等で配布されている。

⑮^{たいがんじ}諦願寺（山号 多宝山、浄土宗）加美区^{ただ}多田



大永二年（1522）遣空上人観柳大和尚による開基で、元禄二年（1689）第七世西空諦存和尚により、真言宗から浄土宗に改宗されたと伝えられる。本尊は阿弥陀如来。脇侍の二十五菩薩来迎像は、通常は来迎図として絵画で表現されるもので大変珍しい。

版木（図版9）は1点残されており、「十夜仏餉袋（じゅうやぶっしょうふくろ）」とあり、浄土宗寺院で広く行われる十夜法要に檀家が持参する袋につける札の版木であるが、現在は使用されていない。

⑯^{りんしょうじ}林松寺（山号 光明山、浄土宗）加美区多田

天文八年（1539）転空泰然上人瑞山和尚の開基

と伝えられる。現在は無住で、諦願寺が兼帯して



いる。薬師堂には薬師如来が安置されている。西の山裾に建つ林松寺からの眺めはすばらしく、村が一望できる。

版木（図版9）は1点残されている。この薬師如来絵像は、現在健康御守として小さな板材に印刷され、5月に行われるの多田の健康の集いで配布されている。

⑰^{じょうこじ}浄居寺（山号 天徳山、臨済宗妙心寺派）

加美区^{かどむら}門村



創建は明確ではないが、天文年間（1532～1555）門村に構居をかまえていた杉原兵太夫安久が、この場所にあった観音堂を菩提寺としたのが始まりと伝えられる。落ち着いた雰囲気のある禅寺で、とりわけ春、菜の花畑の向こうの枝垂れ桜が満開の浄居寺はまるで一幅の絵画のようにみえる。

浄居寺には翁面とそれに係る近世文書が保管されている。それによると、弁才天（厳島神社）では「面かけ神事」が行われ、門村には猿楽師がいたことがわかる。これは、前述の西山観音堂「赤

土當」で紹介した猿楽師を指すものと考えられる。

12点の版木（図版10・11）が残されている。1～6まで大般若経祈禱札で、2の裏面には「天保十二年（1841）辛丑閏正月新□／丹之鶏足登嶺座元上京之砌願也／調刻料五八匁也」と墨書があり、年代・関係寺院・価格がわかる貴重な資料である。3は弘化二年（1845）の受戒法会に配布された護符である。4の裏面には「文政七（1824）甲申孟正下浣／妙心寺中大雄院心首座書之也」と墨書され、妙心寺塔頭の大雄院の名が確認できる。5は側面に「廓周」、「天上天下」と陰刻され、形態からスタンプタイプの版木と判断できる。

8の地藏菩薩絵像は、蓮華座部分と寺名部が埋込である。仏心を育てる掌善童子、煩惱を滅ぼす掌悪童子も描かれている。9の千手観音坐像には現存しない浄居寺の隠居寺「白華山長寿禅庵」の名前が確認できる。12の罫紙版木の裏面に「明治八亥一月新調／天徳山学区内用／二枚之内」と記され、明治九年（1876）に戮力小学校に統合されるまで浄居寺内に設置された「昌徳学校」で使用されたことを示す貴重な資料である。

⑱極楽寺（山号 故谷山、真言宗）加美区豊部



白雉年間（650～654）、法道仙人開基と伝えられる古刹である。かつて当寺は、現在地より北方約800mの森内地区に位置していたが、明治期に現地へ移ったと伝えられる。残念ながら大正十一年（1922）に堂宇のほとんどが焼失し、関係資料は失われている。

本尊は大日如来であるが、庚申堂には青面金剛を本尊として祀っている。毎年3月の第2日曜日に、庚申まつりが盛大に執り行われている。

版木（図版11～16）は26点、43面と今回の調査では、最多数確認できた。6の五社大明神八幡宮守護札は豊部氏神の五社神社の版木である。8は四国八十八カ所巡礼の納め札の版木で、下部に「施播金秀」とある。9光明真言曼荼羅・血脈の刻銘「明弁 弁恵」の名は文化年間に極楽寺8・9代の住職と記録されている。10の弘法大師像の右上「高野山奥院」の彫刻は後補であり、裏面には「寛政七卯年（1795）」の墨書がある。11の青面金剛像は現在は印刷物となっている。

12の表は牛玉寶印で中央に「満願寺」と刻銘がある。満願寺の名は言い伝えて知られていたが、それが資料によって確認されたのは初めてである。裏の奉納折冠千句集は、当地で俳句を募集した版木と考えられる。「点者 石羅」とされる俳人は『風羅念仏集』にみることができ酒見北条の石羅と同一人物と考えられ、この版面が刻まれたのは18世紀末～19世紀前半と推定される。

13～26の仏前勤行次第は、14点の版木の表裏（28面）に刻銘されている。表裏面のノミ跡痕が異なっていることから、職人による版木の分業製作を示している。

⑲^{こんぞうじ}金蔵寺（山号 金蔵山、真言宗）加美区的場

本尊は薬師如来である。笠形山に湧出した黄金仏の薬師如来が熊野権現と共に当山に移られたと、役行者がお告げを受けて来山し開山したと伝え、行基や慈覚大師にもゆかりが深い寺院である。

標高約400mの山頂に位置する山岳寺院で、広大な敷地に本堂、鐘楼堂、籠もり堂、権現堂、奥の院等が点在し、また修験の行場が各所に散在する。多可八景や兵庫県観光百選にも選ばれ、景勝地としても有名である。

13点14面の版木（図版16～18）が残されている。



3の真言札の下部小口には、新しい切り落とし痕跡が看取できる。5の本堂再建勸化牒には上下1ヵ所ずつ、見当が残されている。7御夢想目洗薬は埋め込み式台木に設置され、朱墨痕が残る。10勸化牒題辞は、2枚の板材をほぼ中央で継いで1面に仕上げている。裏面は2本の栈木を蟻落とし継ぎで嵌め込み、補強している。5・11は、天保十三年（1842）に本堂が焼失したことによる、再建にかかる版木である。12の牛玉寶印は幅41cmと巨大である上に、浮き彫りの文字の高さが2cmもあることが特徴的である。

㊸蓮華寺（山号 宝頂山、真言宗）加美区的場



延宝五年（1677）の検地帳に大日堂山林境内に本堂と坊舎を持つ蓮花寺とあることから、古い由緒を持つと思われる。近代に二度の火災を被り、什物は烏有に帰しているため、詳細は不明である。金蔵山登山口に位置することから、金蔵寺との関係が深い。現在は金蔵寺が兼帯している。

4点6面の版木（図版18）が残されている。2の大日如来法息災祈祷札の裏面には「文政元年

（1818）」の刻銘がある。3-1の大日如来護摩供札と3-2の牛馬絵はセットをなし、真鍮板を板材に貼付けている。4柴燈護摩供祈祷札はゴム版である。

㊸神宮寺（真言宗）加美区寺内^{てらうち}



二宮荒田神社の別当寺であり、堂が一字残され、庭には一字一石塔や宝篋印塔が建てられている。それらの傍らに集会所が建ち、周辺はきれいに整備されている。近代には尼寺であったらしく、今でも庵主さんの寺として親しまれている。

版木（図版19）は4点残されている。3の地藏菩薩守護札は、寺内本村に位置する地藏堂の版木と考えられる。4の主夜神火災盗難除札は、呪符部と絵像が別材で拵えられている。

㊸妙見堂 加美区寺内



麓に建つ金比羅神社や大歳神社とグランドの間を登った小高い丘の上（丸山）に、稲荷神社と妙見堂がある。いずれも創建等を推し量る資料は残されていないが、二宮荒田神社に残されている神

社境内図（明治11～22年）には、丸山頂上に鳥居と社が描かれている。

版木（図版19）は1点2面で、現在は寺内神宮寺内に保管されている。1の裏面には「能勢郡」の名が確認できる。

②③^{じんこうじ}神光寺（山号 萬靈山、真言宗）加美区^{いさりがみ}岩座神



『日本の棚田百選』にも選ばれている美しい田園風景の中、千ヶ峰の麓にひっそりと建つ。白雉年中（650～654）法道仙人開基と伝えられる。往古大変栄え堂塔伽藍多く坊舎は一百余りもあったが、兵乱のため廃退したという。また昭和六年（1931）の火災のため、什物のほとんどは焼失した。2001年の発掘調査では、石垣によって区画された階段状の敷地や膨大な量の中世土器が検出され、大規模な山岳寺院であったことが明らかとなった。また、旧神光寺跡といわれる千ヶ峰中腹の通称「寺屋敷」には、今も石垣や階段が残っている。

本尊は十一面観音。参道入口の仁王門の金剛力士像は、鎌倉時代の造立で、ほぼ当初の姿を保っている。

版木（図版19）は、宝珠印を含め2点残されている。

②④常楽寺（山号 蓬莱山、真言宗）加美区山野部

開基は明らかでないが、延宝五年（1677）の検地帳にみえる「薬師堂」が、当寺を示していると考えられる。本尊は薬師如来である。

正月3日に薬師当のオトウ行事が頭人を中心に



執り行われ、村内安全・五穀豊穰が祈念されている。

版木（図版19・20）は14点・15面残されているが、現在使用されているものはない。3の不動心呪札の裏面には「高寺山／正法院／蓬莱山／常楽寺」と墨書され、5の薬師如来守護札に打ち付けられた台木には「播磨国多可郡天田村／高寺山量興寺」の墨書があることから、当常楽寺と中区天田に所在する量興寺との深い関係を示す資料となっている。当版木右側面には「天明元（1781）丑十一月量興寺隆英求之壺匁五分」とあり、当版木の製作時期と価格が分かる。なお、本尊の薬師如来は、中区の量興寺から杉原川沿いに担いで搬入されたとの言い伝えが残されていることも、両寺の関係を物語るものであろう。

13の裏大乘妙典六十六部日本廻国札は、右下の刻銘「備中窪屋郡」と左下を削り込み、版木を再利用している。14は四国八十八ヶ所巡礼である。

②⑤稻荷神社 加美区熊野部

村中を縦断する国道脇の鳥居から杉原川に架かる赤い欄干の橋を渡り、山腹への階段の先に、稻荷神社は鎮座する。祭神は、宇賀能霊神、大歳神、若歳神を祀る。天文二年（1533）の創立にして、慶長十七年（1612）等の修復改築を経て今日に至ると伝える。

秋祭りには、閏年にのみ神輿二基の神幸式を行う。神社を守る一代当のオトウが引き継がれていて、オトウ渡しの神事に供えられる大鏡餅などを



拵える餅つき行事は、「すべ切り餅」の名で親しまれている。

版木(図版20)は、宝珠を含め2点残されている。1の牛玉寶印ごおうほういんは虫喰いによる傷みが顕著であるが、丁寧な作りである。昭和12年頃まで、この牛玉寶印が正月二日のお当渡しの際に配布されていた。

㊸荒田神社 加美区の時



播磨国二宮とされ、二宮荒田神社とも称される。祭神は少彦名命すくなひこなのみこと、木花咲耶姫命このはなさくやひめのみこと、素戔鳴命おさのおのみことである。社伝によれば、天平勝宝元年(749)に当地の字神立に少彦名命が降臨されたことにより社殿が創設され、平安時代には坂上田村麻呂の崇敬を仰いだ。播磨風土記の多可条にみえる「うけひ酒」の天目一命と道主姫命を祀る神社と考えられている。

版木(図版20)は6点残されている。1～5には、対角線上に2カ所の孔が穿たれている。孔に木釘を打ち込んで台木に接合させたスタンプタイプの版木として使用された名残であろう。

㊸安海寺(山号 金峰山、真言宗) 八千代区中村



本尊は阿弥陀如来坐像で、兵庫県指定文化財である。白雉年間(650～654)法道仙人開基で、行基菩薩により堂塔が建立されたと伝えられる。その後元禄年間に火災にあい、横屋村にあった安養院を合併して、元禄六年(1693)に再建したという。

天船地区の四カ村(坂本・中村・横屋・下村)では、安海寺住職によって夏祈祷・冬祈祷時に大般若経が転読される。この行事で摺られた大般若転読祈祷札が参加者に配布され、村境にも立てられる。

版木(図版21・22)は16点18面が残されている。現在も配布されているのは3の大般若経転読札・7の十一面観音法祈祷札・8の日天子息災延命祈祷札・9の真言札である。特に3は天船地区の四カ村の冬祈祷及び夏祈祷で使用されている。また、紀年銘が記されているものも多く、2の仁王経札は文化十年(1813)銘(異筆で安政二年銘あり)、6の十一面観音法祈祷札には嘉永七年(1854)銘、11の祈祷札には享保十一年(1726)銘、16の一夏



刷られた護符

九旬之間勤行之次第には今回の版木調査で最古の元禄十年（1697）銘が墨書されている。

7と8の裏面には、文字が刻みかけの状態を確認できる。2枚の板材は凹凸なく接合可能であることから、版木作成途中で2枚に割れたため設計を変更して、十一面観音法祈禱札と日天子息災延命祈禱札を作り上げたものと推定される。15の御夢相黒葉は三木市の銚礼山正法寺の名が刻まれているが、正法寺が安海寺とともに加西市の酒見寺の末寺であったことを物語る資料であろう。

㊸毘沙門堂 八千代区上三原



かつては西光寺毘沙門堂といい、現在は楊柳寺法持院の飛地境内となっている。創立年は不明で、本尊は毘沙門天である。兵庫県指定文化財の般若十六善神像画が伝えられるほか、堂内にはりっぱな絵馬が数多く残されている。

正月14日に行われる「十四日禱」では、ハゼの木に挟んだ牛玉寶印ごおうほういんと高野豆腐のモチ花が用意され、大般若経転読法会が行われている。

版木（図版22）は宝珠印を含め5点残されて



ゴウヅイと高野豆腐のモチ花（十四日禱）

いる。1の牛玉寶印と5の毘沙門天王守護札は、十四日禱で配布されている。

㊸極楽寺（山号 伊勢和山、天台宗）

八千代区中野間



宝永八年（1711）の縁起（版木）によると、白雉年間（650～654）法道仙人開基で数多くの宝物を持ち繁栄を誇ったが、天正年中（1573～1592）兵火にかかり焼失。わずかに残った小堂が享保九年（1724）に中興されたという。本尊は千手観音。国の重要文化財である鎌倉時代末期の六道絵のほか、同時期の仏涅槃図や千手観音像絵など多くの寺宝を持つ。

2008年の観音堂周辺の発掘調査で、「伊勢和寺」とよばれた極楽寺は少なくとも平安時代後期にはこの地にあり、その後焼失、南北朝期～室町時代前期に再建されたことが明らかになっている。

版木（図版22）は3点4面が残されている。1の伊勢和山極楽寺略縁起は宝永八年（1711）の銘があり、天正年間に灰燼に帰した伽藍の再興を祈念した縁起である。この後享保年間に、本堂等が再建された。2は天台宗寺院の特徴である角大師とも呼称される元三大師絵像で、現在も正月に配布されている。

㊸楊柳寺ようりゅうじ（山号 柳山、天台宗）りゅうざんじ 八千代区柳山寺

白雉年間（650～654年）法道仙人開基と伝えられ、「ヤナギの観音さん」として親しまれている。



本尊は楊柳観音と伝えられる観音菩薩。平安時代前期の十一面観音をはじめとする6体の仏像が兵庫県指定文化財の指定を受けている。江戸時代中期の本堂と仁王門等の建築物は景観と相俟って、寺院の風格を感じさせる。

かつては修正会に田遊びと鬼踊りが行われていたが廃絶し、現在は正月五日に鬼まつりの法会が行われている。

6点の版木(図版23)が残されている。1の牛玉寶印は、現在も正月五日の鬼まつり後配布されている。2の修正会祈祷札の裏面には「文化十二年(1815) 細工 加東郡小部野 三右衛門」の銘が記されている。当版木も1の牛玉寶印とともに、かつては正月に配布されていたものと考えられる。4～6は、千手観音菩薩と脇侍の毘沙門天と兜跋毘沙門天が配されており、現在も楊柳寺奥之院の本尊脇侍としてまつられている。



鬼まつりの法会

③薬師堂 してはら 八千代区仕出原

村社天満宮に隣接して建っている。境内には、享保二十年(1735) 銘の棟札や享保四年(1719)



の廻国地藏尊が残されている。延宝七年(1679) 検地帳に「薬師前」「薬師ノ本」と記されていることから、江戸時代前期以前からこの地に存在していたと考えられる。

春と秋の彼岸には、子供たちも参加して数珠練りが行われる。

版木(図版23)は2点残されているが使用されていない。2点とも版木上下を山形にカットしている点が、特徴的である。1の薬師如来御守札の裏面には「文化元年(1804)」銘が記され、表面には朱墨痕が看取できる。

④八幡神社 八千代区中野間



極楽寺の南西部の山腹に位置する。創立年は不明で、ほんだわけのみこと 菅田別命を祀る。享保十一年(1726)の「伊勢和山中興図」にも、現在と同位置に八幡神社が描かれていることから、極楽寺の鎮守社として成立した可能性がある。

1の厄八幡大神守護札はゴム印版(図版24)で、2月の厄神祭りで配布されている。

③^{おのえ}尾上神社 加古川市尾上町長田字尾上林518

祭神は住吉大明神。神功皇后が三韓征伐の際に、長雨のためこの地で足止めされた時、船を進めるため「鏡の池」で潔斎沐浴し、晴天を祈願し住吉大明神を勧請したことが起源といわれる。謡曲「高砂」に謡われた霊松、「尾上の松」で有名な名所である。

版木（図版24）は2点残されているが、どのような経緯で当町にもたらされたものであるのかは明らかでない。2の境内図は上部2枚の板材を接合し仕上げられている。裏面には、2本の棧木を蟻落とし継ぎで嵌め込み、補強している。左下補修部分が欠落している。



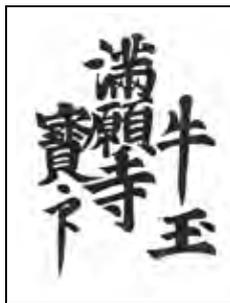
A



B



C



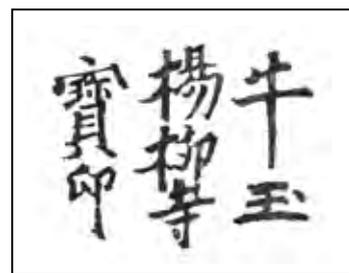
D



E



F



G



H

多可町の牛玉寶印

3. 版木と護符 – 民俗行事から –

今回調査で確認された多くの版木の中で、「牛玉寶印」の版木を中心に取り上げ、当地域においてお札がどのように取り扱われたのか、また現在どのような形で受け継がれているかを考えてみたい。

1. 牛玉寶印と民俗行事

A. 中区天田 量興寺「牛玉寶印」

縦長タイプで、中央に量興寺本尊の「薬師如来」と彫られている。現在は、この版木を元に印刷したお札が使用されている。

一月に行われる薬師当では、お当人は酒で溶いた赤土を、ハゼウルシの木に挟んだ牛玉寶印（ゴウヅイ＝牛玉杖）に押印して本尊に供え、法会後は村人の額にも赤土を押していく。一連の儀式が終わると、牛玉杖は村人に配布されて、各自の床の間や神棚で祀られている。かつては、配布された牛玉杖は田んぼの苗代の水口に挿して、その年の豊穡を祈念していたことが伝えられている。

また、当日午後に執り行われるオトウ渡しにおいては、牛玉杖をお当人の象徴として受け渡しが行われ、重要な役割が付加されている。また、中村町の「お薬師さん」でも、この牛玉寶印は配布されている。



オトウ渡しでの牛玉寶印の受け渡し（天田）

B. 中区奥中 観音寺「牛玉寶印」

縦長タイプで、宝珠をうまく取り込んだ意匠となっている。この牛玉寶印は、奥中の初総会で配布される。現在でも、牛玉寶印を苗代の水口に挿す風習を一部でみることができる。

C. 加美区西山 観音堂「牛玉寶印」

横長タイプで、中央に「莊巖寺」と彫られているが、莊巖寺は明治32年に廃寺となった寺院である。『多可郡誌（大正12年刊）』によると

「西山、赤土当

西山部落には薬師堂あり（今なし）。旧正月八日には村民相集まり堂の広間に輪座し、門村より猿樂を招き之を中央に位置しめ「ゴフ」と称する（護符の意？）半紙半枚大の紙に文字を摺り且つ赤土を腕に練り「ゴフ」及び各人の額に三ヵ所塗り「ゴフ」を仏前に供えて祭りを行ひ、餅及び吸物等を食したり終つて、此「ゴフ」を各戸に一枚を配布し、各戸は五月苗代を作る時、之を竹の先に挿みて害虫を除くとて田の水口に挿し置くと云ふ」

と記され、正月八日に猿樂師が「ゴフ」＝「牛玉寶印」を配布し、当時には害虫除けに田んぼに挿され

ていたことを窺うことができる。

D. 加美区豊部 極楽寺「牛玉寶印」

縦長タイプで、中央に「満願寺」と彫られてる。「満願寺」については、一部の古老により存在が伝えられている幻の寺院であるが、極楽寺との関係は定かでない。

この版木の裏面には、俳句に関する資料が彫られている。そのなかに見られる「石羅」という俳人の名は、享和三年（1803）に刊行された『風羅念仏集』にみえる酒見北条の石羅と同一人物と考えられることから、この俳句関係の刷り面は19世紀初頭前後に彫られたと推定される。木材の下半のみを使用している点を勘案すれば、「牛玉寶印」版木の裏面を転用したと考えられ、「牛玉寶印」自体はそれ以前から使用されていたと考えられる。

E. 加美区熊野部 稲荷神社「牛玉寶印」

横長タイプで、中央に「稲荷大明神」と彫られているが、現在は使われていない。

『神社を中心とする村落生活調査報告（三） 兵庫県』（昭和12年の調査報告）には

「正月二日の本当の引継の条、「牛王」と称して、杉の実りよき枝をささげてこれを拝受する。豊作の兆しとして苗代にまつるといふ。外に土器に土器のわりたる粉を神酒にて粘り、これを各人の額につけて魔除けを意味する行事ありし」

と記され、正月二日の大当（熊野部のオトウは、大当二人と歩射当二人で構成される）のオトウ渡しの際に、牛玉寶印は杉の実とともに配布されていたことと、土器を割って粉にしたものを御神酒で溶いて、魔除けとして村人の額に付けていたことを示している。

現在では、二月初旬にオトウ渡しが執り行われている。



弓射神事（熊野部）

F. 加美区的場 金蔵寺「牛玉寶印」

横長タイプで、中央に「金蔵寺」と彫られている。非常に大きく幅41.0cm、高さ25.3cmと町内最大級で、文字の浮き彫りの高さが約2cmを測ることが特徴的である。単に刷るという機能以外に、視覚的な意味合い等も含まれているものと考えられる。現在は使われていないが、どのような行事の中でどのように使用されていたか注目される。

G. 八千代区柳山寺 楊柳寺「牛玉寶印」

横長タイプで、中央に「楊柳寺」と彫られ、裏面は手斧削りのような痕跡が残り、中世的なおもむきを感じさせる。明治時代まで、修正会の結願に行われていた鬼追い後に配布されていたものと考えられる。現在、牛玉寶印は正月五日の「鬼まつり」の法会時に供えられている。

H. 八千代区上三原 毘沙門堂「牛玉寶印」

横長タイプで、中央に「西光寺」と彫られている。「西光寺」は現在の毘沙門堂を指し、「ユスラ」と呼ばれる木枝に挟まれた牛玉寶印は、毘沙門堂で正月十四日に行われる「十四日禱」の大般若經転読後に配布されている。かつては持ち帰った牛玉寶印を苗代に挿し、豊作を祈願していたと伝えられている。

また、十四日禱では当人（現在は隣保当番）によって作られる白豆腐の串刺し（いわゆるモチ花）も、注目される。

以上8点の牛玉寶印の概略をみてみたが、この版木の8点という数量が多いのかは、近隣で比較するだけの資料がないので明らかでない。また、版木以外の牛玉寶印の資料を検索してみると、以下の如く資料を提示することができる。

I. 加美区寺内 地藏堂「牛玉寶印」(寺社位置図③④)

地藏堂は、圃場整備前には寺内の南方に存在していたが、現在地に移転された。

この地藏堂の「おとぼりさん」と呼ばれる御当事箱内には木版刷りでなく墨書きの牛玉寶印が、10枚残されている。字体から5種類の牛玉寶印が判別できる。御当事箱内に残されている元禄十一年(1698)から現代まで伝えられている古文書には、かつての地藏堂オトウ渡しは、正月十三日に執り行われていたことが記されている。また一時期、お寺(「上人・弟子」)に対してお礼を支出していることから、僧侶によって書かれた牛玉寶印と考えられる¹⁾。



地藏堂(寺内)



御当事箱内の墨書牛玉寶印

J. 加美区棚釜 広峰神社四季耕作図絵馬「牛玉寶印」(寺社位置図③⑤)

明治十六年(1883)、谷本治左衛門、溝垣小右衛門によって、五穀豊穰を祈願して広峰神社に奉納された板地着色の絵馬(97.0×146.0cm)である。絵具の剥落が目立つが、広峰神社とともに棚釜集落の四季の農作業風景が描かれている。

左下の苗代と推定される田んぼには、「中」の字に似た小さな御幣のような旗が数本描かれており、これが牛玉寶印を挟んだゴウヅイと考えられる。当時の牛玉寶印の使用方法を示している貴重な資料である。

版木によって刷られたり、刷札が印刷されながらも、現在も牛玉寶印が使用されているのはA量興寺・B観音寺・G楊柳寺・H毘沙門堂の4点である。



広峰神社（棚釜）



四季耕作図絵馬トレース（部分）

現在は使用されていないが、文献等の資料に使用されていたことが記されているのは、C 観音堂・E 稲荷神社・J 広峰神社である。

配布された牛玉寶印の使用方法は、J 広峰神社の絵馬が示すように、A 量興寺・B 観音寺・C 観音堂・E 稲荷神社・H 毘沙門堂では、苗代に挿して豊作を祈願していたことが伝えられている。

牛玉寶印が供されるのは新年を迎えた正月が多く、いわゆる修正会の時期に該当する。13 観音寺の奥中地区の初総会は現在3月に開催されているが、かつては1月に開催されていた。

牛玉寶印が配布される儀式では、A 量興寺では、参拝者の額に赤土を押し付けることが行われている。C 観音堂・E 稲荷神社でもかつて同様の行為が為されていた。牛玉寶印の原形は、儀式に参加した人の身体に宝印を授けるということを考慮すれば、額に赤土を押すという行為は個人に対する魔除け・無病息災を祈念するものであり、古い形式の儀式が残存していると考えられる。

また、A 量興寺では、牛玉寶印はオトウ渡しの象徴（神の依代）として重要な役割を果たしており、特殊な供され方を認めることができる。

以上のように、牛玉寶印は当地域において農業生産安定（五穀豊穰）護符として、広範囲に住民生活の中に浸透していた状況を窺うことができるのである。

2. 大般若経（転読）祈禱札と民俗行事

大般若経（転読）祈禱札の版木も、量興寺・善光寺・円満寺・浄居寺・極楽寺（豊部）・安海寺の寺院で確認できる。日本では大宝三年（703）に四大寺で大般若会が行われて以降、奈良時代には、国家安寧のため宮中や寺院で大般若経転読が恒例行事となった。そして中世の文永・弘安の元寇の襲来において、大般若経が異国調伏の効力があつたとして社会に広く認められるようになった。こうした大般若経は当町のような農村地域の寺院にも広く流布し、大般若経転読法会が執り行われるようになり、大般若経の功德を表出した祈禱札も配布されるようになったのである。

量興寺・極楽寺（豊部）では、残されている版木とは別版の印刷物の大般若経転読祈禱札が配布されている。量興寺では大般若会に参加したお当人が法会后に転読祈禱札を竹に挿して、村内への疫病等の侵入を防ぐために村境の6ヶ所に立てている。浄居寺では、住職自ら鑿を入れた版木で護符が刷られて配布されている。



大般若経転読（毘沙門堂 十四日禱）



大般若経転読（加美区 極楽寺）



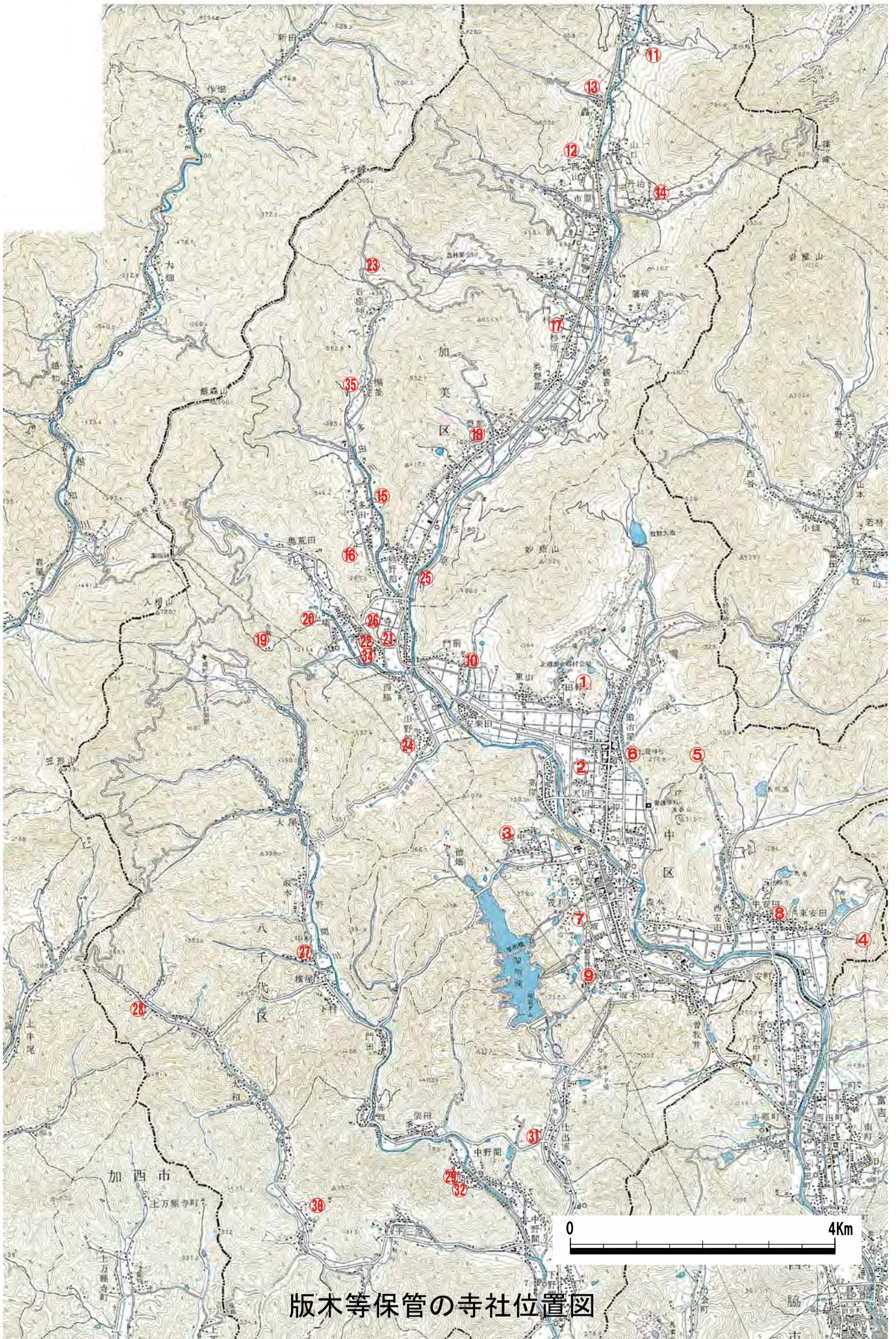
「こつぷりさん」（下村 夏祈禱）



村境に護符を立てる当人（天田）

安海寺の版木は、天船地区の四ヶ村（坂本・中村・横屋・下村）の冬祈禱及び夏祈禱で、刷られて護符が生み出されている。村によって必ずしも対応は同一でないが、基本的に版木で護符を刷る役割はお当（禱）人が担っている。この冬祈禱及び夏祈禱での大般若経転読後、架けられていた十六善神の掛け軸を納めた木箱と大般若経巻第一と巻第六百を納めた木箱を重ねて、住職がお当人の一人の頭を軽く叩く。その後住職から2つの木箱を授かったお当人の一人が、住職ともう一人のお当人の後、参加者全員の頭を順番に叩いていくという「こつぷりさん」という儀式が行われている。そして加持祈禱された大般若経転読祈禱札が、村人に配布されている。この護符は、持ち帰った家で柱に貼ったり、仏壇等に供えられている。

このように版木で刷られた護符（「牛玉寶印」・「大般若経転読祈禱札」）が、依然住民の生活の一部となっていることを示している。ただこうした版木と護符と人々の生活の結びつきを確認できる事例は、残念ながら非常に数少ない状況となっている。



版木等が保管されている寺社名

- | | | | |
|--------------------|---------------|----------|-----------|
| ①田野口 清水寺 | ②天田 量興寺 | ③奥中 観音寺 | ④東安田 善光寺 |
| ⑤西安田 円満寺 | ⑥鍛冶屋 大歳金刀比羅神社 | ⑦安坂 鳳凰寺 | ⑧中安田 稲荷神社 |
| ⑨糝屋 稲荷神社 | ⑩門前 八幡神社 | ⑪清水 雲門寺 | ⑫西山 観音堂 |
| ⑬轟 虚空蔵堂 | ⑭丹治 日光寺 | ⑮多田 諦願寺 | ⑯多田 林松寺 |
| ⑰門村 浄居寺 | ⑱豊部 極楽寺 | ⑲的場 金蔵寺 | ⑳的場 蓮華寺 |
| ㉑寺内 神宮寺 | ㉒寺内 妙見堂 | ㉓岩座神 神光寺 | ㉔山野部 常楽寺 |
| ㉕熊野部 稲荷神社 | ㉖的場 荒田神社 | ㉗中村 安海寺 | ㉘上三原 毘沙門堂 |
| ㉙中野間 極楽寺 | ㉚柳山寺 楊柳寺 | ㉛仕出原 薬師堂 | ㉜中野間 八幡神社 |
| ㉝加古川市 尾上神社 (地図上欠番) | | ㉞寺内 地藏堂 | ㉟棚釜 広峰神社 |

- 1) 当町に隣接する西脇市日野町の観音堂では、一月に行われる「観音当」という行事で、お当人が「牛玉 等覚寺」と墨書きした牛玉寶印を作成し、西仙寺住職の加持祈祷後参加者に配布されていた。この点を考慮すれば、必ずしも僧侶によって墨書されたものではない。ただし現在では、「観音祭」として行事は続いているが、牛玉寶印の配布は、平成15年をもって中断している。(吉田明生氏教示)

【参考文献】

- ・『加美町史 史料編』加美町役場 1984
- ・『杉原谷村郷土誌』籾賀與一 1950
- ・『加美村誕生松井庄部落誌』籾賀與一 松本勝次郎 1959
- ・『兵庫県神社誌 中巻』兵庫県神職会 1938
- ・『中町誌』中町役場 1954
- ・『多田村落誌』多田歴史勉強会 2000
- ・『中町史 本編』中町役場 1991
- ・『八千代町史 本文編』多可町 2007
- ・『ふるさと かみみはら』上三原「ふるさと かみみはら」編集委員会 2004
- ・『日本の護符文化』千々和 到偏 弘文堂 2010

4. 版木調査成果とまとめ

今回の版木調査によって、町内の寺社に225点の版木が残されていることが明らかとなった。今後当調査報告書をきっかけとして、新たな版木が確認できることを祈念している。

「護符は日本人の神観念や神仏関係変遷を具体的に考える上で貴重な資料である¹⁾」との文章の「護符」を「版木」に置き換えても、多量の護符を生み出す素材が版木であることを考慮すれば、全く違和感はない。今回の調査では、第3章の「牛玉寶印」や「大般若経（転読）祈禱札」の版木でみたように、当地域の風習や宗教と民衆のあり方を考える上で、多くの知見を得ることができたものと考えている。

加美区山野部の常楽寺の版木（図版19常楽寺3・5）には、中区天田の量興寺の什物であることが墨書されている。この版木によって、常楽寺の本尊薬師如来像が量興寺から運ばれてきたという山野部地区での言い伝えは全くの眉唾ではなく、寺院間の関係を再確認できる資料となった。

豊部極楽寺の版木（図版12極楽寺12裏）は、江戸時代後半に広範囲に俳諧を募集するチラシを刷るためのものであろう。取次所をみると「マトハ（的場）」、「アラタ（安楽田）」は当町内の地区名称で、「クニ正（国正）」、「ハン上（繁上（昌）」は加西市の地区名称、「キタノ（北野）」は加東市の地区名称、「アカシ（明石）」は現明石市のことと指すものと推定でき、加古川流域の東播磨全体の地区が示されており、当時の文化交流を示す貴重な資料となるものであろう。

豊部極楽寺の版木（図版11極楽寺8）と山野部常楽寺の版木（図版20常楽寺14）は、四国八十八ヶ所巡礼の納め札版木である。巡礼に伴う通行手形の発布は通常菩提寺が行っていたが、この版木の存在により納め札も巡礼者に配布していたことが分かる。

以上のようにざっと概観するだけでも、版木が語りかけてくるメッセージを感じ取ることができる。版木が当時の民衆が必要としていた護符等を生み出す原資料で、民衆の意識を表出するものであり、貴重な歴史資料であることを再認識できよう。今回の調査は、町内のどこに、どのような版木が残されているかを把握し記録するための調査であって、今後の地域歴史研究のための基礎資料の蓄積が目的となる。こうした埋もれていた歴史資料をどのように活かしていくのが、今後の課題となろう。

最後になりましたが、当報告書をきっかけとして版木を保管管理される寺社や団体が、版木を歴史資料として認識していただき、今後も大切に保管していただければ幸いです。また、当調査報告書が、当町を含めた地域の民衆史や宗教史等の研究において活用されることを期待します。

1) 千々和 到「護符の調査」251頁『日本の護符文化』 弘文堂 2010

なお、今回の版木調査に際して、以下の通り事業を実施したので、報告する。

- ・文化財企画展「多可町の版木－「牛玉寶印」とその民俗－」

於：多可町那珂ふれあい館 期間：平成24年6月19日～8月3日

- ・多可町おもしろ歴史セミナー「多可町の版木－「牛玉寶印」とその民俗－」

於：多可町那珂ふれあい館 日：平成24年6月24日 講師：宮原文隆

- ・多可町生涯大学セミナー「多可町のお札と版木－牛玉寶印を中心として－」

於：多可町八千代プラザ 日：平成24年8月22日 講師：宮原文隆



文化財企画展（多可町の版木）



多可町おもしろ歴史セミナー



企画展ポスター



1 (表)

1 (裏)

①田野口 清水寺



1

2

3

4 (表)

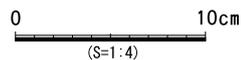
4 (裏)



5



6



②天田 量興寺



7 (1/3)



8 (1/3)



9 (1/3)



10(表1/3)



10(裏1/3)

②天田 量興寺



1 (1/3)



2 (ゴム)



1

③奥中 観音寺

④東安田 善光寺

0 10cm
(S=1:4)



0 10cm (S=1:4)

⑤西安田 圓滿寺

岡山堂畧縁記

極當寺中真岡山明定上人の浄生縁と爲
 多に河内公父の浄名と志主子大運と号し
 母の傍於氏源朝臣時秀の息女あり記及三取
 の衣室光寺爲受大徳と御牌して齋を
 修まより言誓山に坐り龍光院宣旨阿闍梨
 小付て爲密宗と禪りあり或曰法法大師の法
 を傳ふ山に永く住りてを早く極及又向て
 多くの古刹あり是と岡基と爲しこの山麓に依
 て是高山坐り伽藍と建し一そは極丹あるに
 七寺の古仏を再興あり而に今應徳又び堂
 乃浄當像の師堂上人曰捨武藏尼衆の御染よ
 是て淨月身調創をさす山所の古像之徳中を以
 尚志の周守の跡跡の誠意池田三左衛門尉殿政云

11(表1/2)

の附と興浄法因堂辰叔日靜種より成る徳志の
 坐像も像入徳符と是法形種有るをいふも教を以宗
 多主真をく當に尚寺岡山の定上人の徳風と爲り以
 池田公再三浄教者若佛形種修繕き之れは上人圓
 禪をさすを長捨年宵月合時法円を法形種有
 是は法種種の具衆と敬的是の形に出現法徳的免
 のは縁少も是のさす之白法思改之遷移り河内堂を
 卧徳障の曰び法因に矣信建立あり六則河内堂の
 依る此會と法誠多しと是の尚志を川原日原氏の遺通
 中付後より大徳建立徳施鬼神と示形於大徳非と親少ハ
 法誠安全に細り是はして先例も今も各毎年正月合衆法
 誠法形種の札お洞啓徳命知りされは當に是せしむ也

播列多可郡安田左
 吉祥山
圓満寺

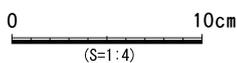
11(裏1/2)



12(1/3)



13



15(表)

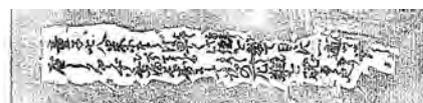


15(裏)

⑤西安田 円満寺



14



14(裏部分1/3)



16



17(表)



17(裏)

⑤西安田 円満寺



1



2



3



4



5



6



7



8



9



10



11

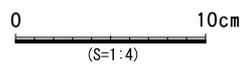


12



13

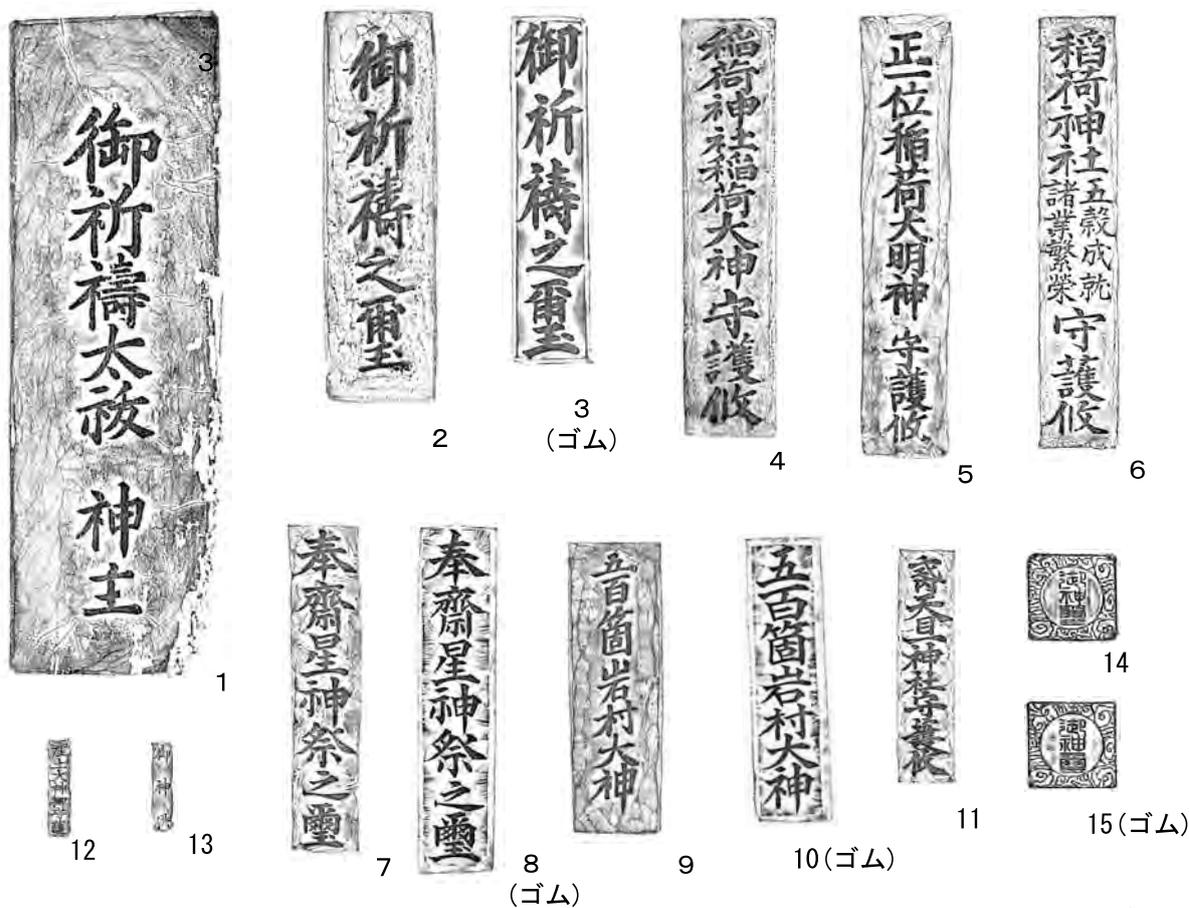
⑥鍛冶屋 大歳金刀比羅神社





⑦安坂 鳳凰寺

5 (1/3)



⑧中安田 稻荷神社



1



2



3



4



5



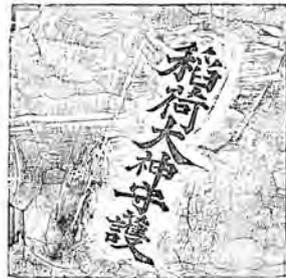
6



7



8



9



10

⑨糶屋 稻荷神社



1 (表)



1 (裏)



2 (表)



2 (裏)

0 10cm (S=1:4)

⑩門前 八幡神社



⑪清水 雲門寺

1 (1/3)



⑫西山 観音堂

1 (1/3)



1



2

⑬轟 虚空蔵堂



1



2 (1/3)



3

⑭丹治 日光寺



1

⑮多田 諦願寺

0 10cm
(S=1:4)



1 (1/3)

⑯多田 林松寺



1



2



3



4



5



6



7



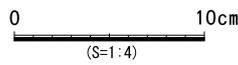
8 (1/3)



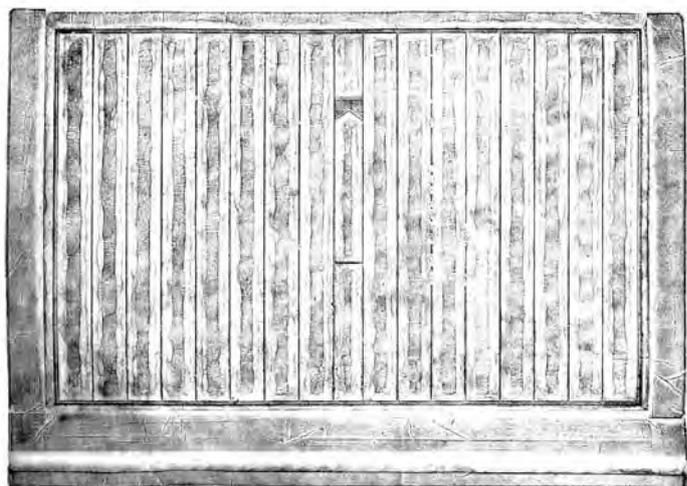
9 (1/3)



10



11



⑰門村 浄居寺

12



1 (表)

1 (裏)



2 (表)



2 (裏)



3



4



5



6

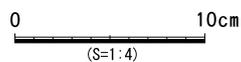


7



8

⑱豊部 極楽寺



9



10(1/3)



11(1/3)



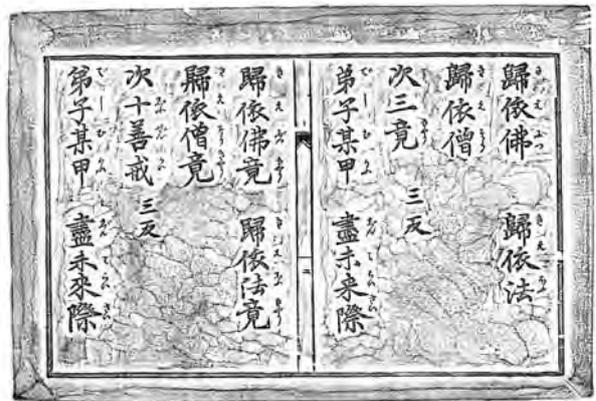
12(表1/3)



12(裏1/3)



13(表1/3)



13(裏1/3)



14(表1/3)



14(裏1/3)



15(表1/3)



15(裏1/3)



16(表1/3)



16(裏1/3)



17(表1/3)



17(裏1/3)



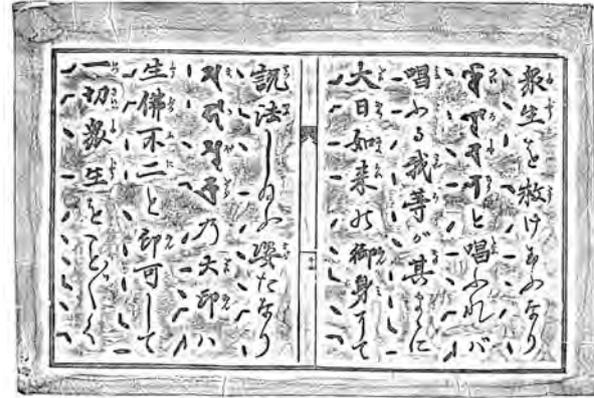
18(表1/3)



18(裏1/3)



19(表1/3)



19(裏1/3)



20(表1/3)



20(裏1/3)



21(表1/3)



21(裏1/3)



22(表1/3)



22(裏1/3)



23(表1/3)



23(裏1/3)



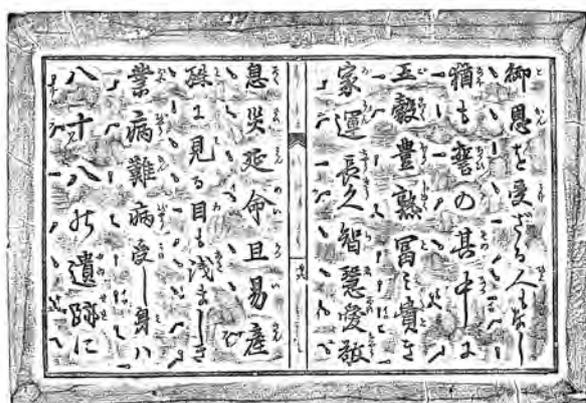
24(表1/3)



24(裏1/3)



25(表1/3)



25(裏1/3)



26(表1/3)



26(裏1/3)

⑱豊部 極楽寺



1



2



3



4



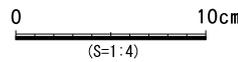
5



7



6



8(表)



8(裏)



9

⑲の場 金藏寺

⑬ 的場 金藏寺

勸化牒題辭

夫神當山本尊藥師如來は往昔人皇
 三十七代孝德帝に御宇當國笠形山に出現
 一のよ冥佛か略縁起小詳なり千餘歳の
 星霜と経る所天保十三癸寅秋本堂尽焼失
 せり今般再建の志願ありといども寺領少も
 これなく其上拙僧財産小乏しく志願成就ん
 事難し此神小依て十方有信の貴賤財乃
 多寡と論じ喜捨れ志誠を以佛宇を再
 建し如來を安置しなくまわし本尊大悲に
 願力小く衆病悉除の利益を蒙らん爰諸人
 疑と生くる事ふれと云ふ

10(1/2)

金藏山藥師如來畧縁起

夫當山本尊は昔代人皇三十七代孝德帝の御宇當國笠形山小
 浦出たり神長體小童子に於て光明遍く十方法照と號し爲根
 浦北海門にありて神族警散して約漁おほく利ありて浦人
 是深憂く神助と慈野撞泥小形に日と應く神人爲て貴武
 名譽と神たまは神即彼夢に訓とて子孫承傳其光を承先流ひに
 去りて日發輝けりて靈尊此小形神の流は神亦流逐し一其
 流小故か今猶境内小形神指現の廟宇あり爰小當山古處岩樹靈祥
 慈此深空にありて峻峯疊奇徳驗乃高勝とありて如之洞水澄
 清して常に願極の應答ありて茶樹枝を定て榴璃の色と標せり大醫
 王經小社止と流ひし幸良小由あり其慈に其時標根未整して
 湯仰り人々遠小和洞中に入り音喊の彼小角初く留湯練行し
 次天平二年菅原寺此行基菩薩佛光弘慕ひありて目面頂を一所
 目佛軀形彫刻く佛尊像と其胎中に安置し是聖人小若く施財と信ひ
 佛殿を築創して化縁縁結了り即今此佛像是なり其後殿乃慈定所
 若く再興し又正徳二年生信者當今の堂を以て建之り自始至今
 の同願徳名跡跡を連く錫とて若小掛士農工商諸族操く不仕を爲せ
 奉毛奉にやむるに唯本由れ爰法記之篤信の人小若く少あり

11(1/2)

播州多可郡

金藏山金藏寺



⑬の場 金蔵寺

12(1/3)



13(1/3)



1(表)



1(裏)



2(表)



2(裏)



3(真鍮1/3)



4

⑭の場 蓮華寺

0 10cm
(S=1:4)



9



10



11



12



13(表)



13(裏)



14

②④山野部 常樂寺



1 (1/3)



2

②⑤熊野部 稻荷神社



1



2



3



4

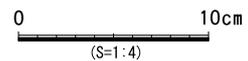


5



6

②⑥の場 荒田神社





金峯山

1



法主

2



3



4(表)



4(裏)



5



6



7(表)



7(裏)



8(裏)



8(表)



9



10



11



12(表)



12(裏)



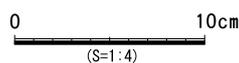
13



14



15



(S=1:4)

②7中村 安海寺



16

②7中村 安海寺



②8上三原 毘沙門堂 1(1/3)



5



2(1/3)



3(表1/3)



3(裏1/3)



2(1/3)

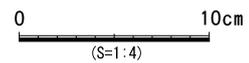


3



4

②9中野間 極楽寺



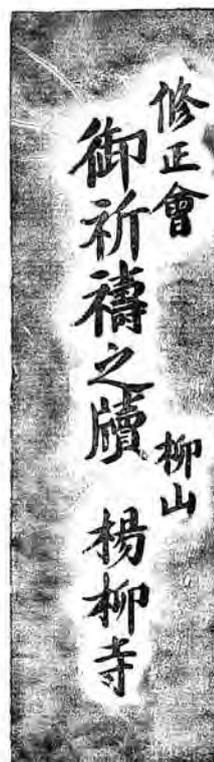
(S=1:4)



1(1/3)



1 (1/3)



2



3



4 (1/3)



5 (1/3)



6 (真鍮)

③〇柳山寺 楊柳寺

0 10cm
(S=1:4)



1



2

③①仕出原 藥師堂



1 (ゴム)



2

③②中野間 八幡神社



1

0 10cm
(S=1:4)



③③加古川市 尾上神社(多可町保管)

2 (1/3)

版木データ一覧表

中区の版木

保管者	図版	番号	名称	種類	法量(cm)	時代	銘文	備考
					縦×横×厚さ			
①田野口清水寺	1	1	(表) 祈祷札 (裏) 観音堂供養佛前	札 その他	35.7×10.3×2.2	近現代		両面
②天田量興寺	1	1	仁王般若経祈祷札	札	28.2×27.7×1.3			0.9cm厚の台木に貼付
		2	大般若経転読札	札	30.0×4.9×1.4			
		3	神符経祈祷札	札	30.5×4.3×2.3~2.5	享保十七年 (1732)	右面墨書：「三月吉日」 裏墨書：「享保十七子三月吉日□之 真祐自作」	
		4	(表) 不動明王供廿一座祈祷札 (裏) 仁王般若経祈祷札	札	31.0×5.5×0.5~1.4			両面、裏面は正月の参拝者に配布、現在は印刷札
		5	光明真言	札	22.7×10.3×1.9	明和四年 (1767)	左側面墨書：「明和四亥八月十一日代銀三匁八分佛子 大□」 「奉納経/第十二番 阿州国分寺遷/本尊薬師如来/推古天皇御願所 多可郡多可寺山 量興寺」	阿州国分寺は禅宗寺院で、現在は十五番札所
		6	薬師如来奉納経札	その他	15.5×10.5×1.3~1.8			
		7	大日如来像	絵像	22.5×10.0×1.7		虫損顕著	
		8	菅原道真像	絵像	23.0×30.5×1.9~2.3	江戸		一部虫損、菅原道真(天満宮)は、量興寺に隣接する加都良神社にも祀られていない
		9	弘法大師像	絵像	21.5×10.8×0.7~1.0	江戸		一部虫損
		10	(表) 牛玉寶印 (裏) 玄雲	札 その他	25.0×14.0×3.2		(表)「牛王/薬師如来/寶印」 (裏)「玄雲」	両面、(表)薬師当で「ごうづい」として配布、(裏)木クギ3ヶ所、二色刷の朱墨残存
③奥中観音寺	2	1	牛玉寶印	札	24.0×14.0×4.0		「牛玉/薬師如来/寶印」	
		2	牛玉寶印	札	21.0×14.0×0.4	現代	「牛王/薬師如来/寶印」	ゴム印、奥中初総会で配布
④東安田善光寺	2	1	大般若祈祷之札	札	33.5×11.4×2.0			向かって左下の寺名部分嵌め込み式、右下部分は亡失
⑤西安田円満寺	3	1	光明曼陀羅	札	43.8×16.0×2.5~3.0			
		2	祈祷護摩供之牘	札	30.8×7.4×2.2			
		3	護摩供札	札	27.0×6.2×1.8			現在も使用(正月に檀家に配布)
		4	月天子秘法供息災祈攸札	札	27.5×6.0×1.8~2.0			
		5	日天子家内安全息災祈攸札	札	23.2×6.0×1.8~2.0			最上部小口に新しい切り口あり
		6	御祈祷之札	札	33.5×9.0×1.2~1.5			
		7	大般若経転読祈祷札	札	29.5×6.5×1.8			
		8	朱印	印	5.5×4.1×1.8		裏面墨書：「上」	
		9	安産守	印	9.2×3.5×1.5~1.7		裏面墨書：「安産守」	朱墨印
		10	薬師如来立像	絵像	45.0×26.3×2.5			埋木による補修4ヶ所、裏：ヤリガンナ状仕上げ痕
4	11	開山堂畧縁記	縁起	22.0×31.5×2.5	*別記一	両面、板反りやや顕著		
5	12	薬師三尊絵像	絵像	27.5×13.6×2.1		裏面墨書：「薬師」	竹釘痕跡6ヶ所	
13	大イチョウ 垂乳女像	絵像	22.0×12.5×1.2					
14	佛説金剛壽命陀羅尼經	經典	16.0×80.5×1.5		裏浮き彫り：「童子七八歳になれば早く此の経を教て日に一遍つゝ読うべし。必ず無病長寿にして諸の厄難を逃るる也」	端喰による補強あり		
15	(表) 常光明真言講録一 (裏) 常光明真言講録二	勅化	21.0×40.6×0.6~0.8	文政四年 (1821)	*別記二	両面、端喰による補強あり、16とセット		
6	16	常光明真言講録三	勅化	21.0×40.6×0.6~0.8	文政四年 (1821)	*別記二	端喰による補強あり、15とセット	
17	(表) 開帳佛前袋 (裏) 開帳奉加帳	勅化	29.5×18.5×3.2			両面、本尊の開帳は33年ごと		
⑥鍛冶屋大蔵金刀比羅神社	6	1	大祓玉串祈祷札	札	25.6×5.8×2.0			地鎮祭に使用、間子村当人に配布
		2	星祭祈祷之璽	札	21.8×5.3×1.8		反り顕著	
		3	金刀比羅神社星祭祈祷守護札	札	24.5×4.4×2.3			
		4	金毘羅神社守護札	札	22.2×4.5×1.9			
		5	加都良神社星祭祈祷守護札	札	22.3×3.9×2.1			
		6	金刀比羅宮守護	札	12.8×3.0×1.8			別材台付、上方に鋲、スタンブタイプ

保管者	図版	番号	名称	種類	法 量 (cm)	時 代	銘 文	備 考
					縦×横×厚さ			
⑥鍛冶屋 大歳金刀 比羅神社	6	7	加都良神社守護	札	11.5×2.9×2.1		裏面墨書：「□八幡宮御□」	スタンプタイプか？ 朱墨痕あり
		8	加都良大神御璽	札	10.6×2.9×2.1			スタンプタイプか？ 朱墨痕あり
		9	大歳金刀比羅神社守護札	札	11.0×1.8×3.8			スタンプタイプ 朱墨痕あり 上方に銅釘
		10	八幡神社神璽	札	10.6×2.9×2.1		裏面墨書：「五百箇御珠統神」 判の下書き	スタンプタイプか？ 朱墨痕あり
		11	厄除八幡宮御璽	札	11.0×2.4×1.7			スタンプタイプ 朱墨痕あり 別材台付釘で固定
		12	荒田神社守護札	札	10.9×2.4×2.3			スタンプタイプか？ 朱墨痕あり
		13	稲荷神社守護札	札	11.4×2.7×2.3			スタンプタイプか？ 朱墨痕あり
⑦安坂 鳳凰寺	7	1	月天子祈禱札	札	30.8×5.5×1.3		裏面墨書：判読不明	
		2	不動明王真言	札	29.6×6.0×1.5			摩耗顕著で使用頻度高い、 上下に切り込みあり
		3	仁王般若経祈禱札	札	30.7×5.3×2.3			一部虫損
		4	吉祥天陀羅尼	札	29.0×6.0×1.4			
		5	不動明王札	札	27.5×5.0×1.3			一部虫損
⑧中安田 稲荷神社	7	1	御祈禱太祓札	札	34.6×10.8×2.0			虫損顕著、右上隅を彫り残 して見当とする
		2	御祈禱之璽	札	20.6×5.7×2.0			
		3	御祈禱之璽	札	17.8×3.6×0.4	現代		ゴム印、スタンプタイプNo2 の新版
		4	稲荷神社稲荷大神守護札	札	22.0×4.8×2.0			
		5	正一位稲荷大明神守護札	札	23.0×4.0×1.9			
		6	稲荷神社守護札	札	22.6×3.8×2.1			
		7	星神祭之璽	札	17.0×3.3×1.2			三ヶ所鉄釘で台木に固定
		8	星神祭之璽	札	17.7×3.5×0.3	現代		ゴム印、スタンプタイプ No7 の新版
		9	五百箇岩村大神	札	15.2×4.3×1.9			
		10	五百箇岩村大神	札	14.6×3.1×0.3	現代		ゴム印、スタンプタイプNo9 の新版
		11	式内天目一神社守護札	札	12.6×2.8×1.4			
		12	産土大神御守護	札	4.8×0.9×6.1			スタンプタイプ 上面切込み
		13	御神供	その他	4.5×0.9×6.1			スタンプタイプ 上面切込み
		14	御神璽角印	その他	4.7×4.9×1.9			スタンプタイプ 把手付
		15	御神璽角印	その他	4.8×4.8×0.3	現代		ゴム印 スタンプタイプNo14の新版
⑨靴屋 稲荷神社	8	1	稲荷山神社 牛馬安全守護札	札	27.5×6.3×2.2			かつて大日堂で配布
		2	稲荷神社守護札	札	23.0×3.7×2.1			
		3	當勝神社 三柱大神 守護札	札	27.5×5.2×1.8			中区坂本二社神社の「にじゅ うそう」の祭りで配布、現 在は印刷札
		4	厄除八幡大神守護攸	札	24.3×7.3×1.6			中区坂本八幡神社・加美区 門村厳島神社・加美区杉原 八幡神社の厄神祭で配布、 現在はゴム印のものを使用
		5	荒神社齋火産霊大神守護札	札	22.0×7.5×2.0			正月に参拜者に配布、現在 は印刷札
		6	稲荷神社御祈禱之璽	札	14.2×3.2×2.1			随時配布、現在は印刷札
		7	稲荷神社開運守護符	札	15.0×4.0×2.1			正月に参拜者に配布
		8	稲蒼魂大神	札	14.6×3.6×2.1			内符
		9	稲荷大神守護	札	14.5×14.5×2.3			見当あり、深さ1.8cmの釘穴 あり、かつて秋の新當祭に 配布する劔先形札用
		10	天神社守護	札	13.0×4.0×2.0			劔先形札用。板材に打ち付 け
⑩門前 八幡神社	8	1	八幡宮守護札	札	24.0×6.7×1.5		裏面刻書：「ト部」	上部の「正」が削り取られ、 その上に木釘が打たれてい る。門前村袴事箱内に保管
		2	鎮疫神	札	19.3×7.0×1.6		裏面刻書：「ト部」	門前村袴事箱内に保管

加美区の版木

保管者	図版	番号	名称	種類	法 量 (cm)	時代	銘 文	備 考
					縦×横×厚さ			
①清水雲門寺	9	1	奥山地蔵尊	絵像	17.3×10.4×1.8	明治三十八年(1905)	裏面墨書：「明治三十八年八月十五日播州雲門寺□□」	「加美町清水」はゴム印のはめ込み、奥山地蔵祭りで配布、現在は印刷札
⑫西山観音堂	9	1	牛玉寶印	札	16.8×23.0×3.6		「牛玉/莊嚴寺/寶印」	
⑬轟虚空蔵堂	9	1	御祈祷之札	札	29.9×7.6×4.8	明治十三年(1880) 明治十六年(1883)	右側面墨書：「明治十六年未正月吉日大山白位」左側面墨書：「播磨国多可郡大河村正蔵寺」裏面墨書：「明治拾参年辰春大山白位 大山白位」	
		2	御祈祷御祭 河上左近	札	31.7×6.6×1.8			「河」の三水扁は埋め木で補修、河上左近は河上神社神主
⑭丹治日光寺	9	1	淡島大明神守護札	札	33.4×5.9×4.3			
		2	文殊菩薩像	絵像	19.7×9.2×2.1			左下角に削り残しによる見当あり、現在は印刷札
		3	角印	その他	4.5×4.5×-			2の護符に押印する角印
⑮多田諦願寺	9	1	十夜佛餉袋	その他	20.8×7.5×2.4			一部虫損
⑯多田林松寺	9	1	薬師如来坐像	絵像	22.3×13.8×1.7			裏面脚台付
⑰門村浄居寺	10	1	大般若経転読札	札	34.0×8.6×2.8	現代	平成20年頃まで使用	
		2	大般若経寶牘	札	35.6×11.0×1.8	天保十二年(1841)	裏面墨書：「天保十二辛丑閏正月新□丹之鶴足登嶺座元上京之御願也 調刻料 五八匁也」	表面一部彫り直し痕跡あり
		3	大般若経奉修札	札	30.0×8.5×1.7	弘化二年(1845)		
		4	大般若経転読札	札	31.0×7.5×1.7	文政七年(1824)	裏面墨書：「維持文政七甲申孟正下浣 妙心寺中大雄院心首座書之也」	
		5	大般若経転読祈禱札	札	36.8×2.6×3.8		左側面陰刻：「廓周」、梵字らしき墨書あり 右側面陰刻：「天上天下」、「○」の墨書あり	スタンプタイプ
		6	大般若経転読祈禱札	札	15.8×8.0×1.9			
		7	円通妙懺奉虔札	札	25.4×7.2×2.3		裏面陰刻：「寄附 バンノ 浄居寺」	
		8	地藏菩薩三尊像	絵像	26.0×17.8×1.8	天明三年(1783)	裏面墨書：「丹後宮津 □□寺 地藏 天明三」ほか、裏面陰刻：「三」	ニカ所はめ込み修理痕跡あり
		9	千手観音坐像	絵像	14.3×7.6×1.4		「白華山 長壽禪庵」	
		10	領収書	その他	18.2×25.4×1.7	近現代		
		11	昆布 御はし	その他	16.0×5.9×2.0		裏面墨書：十字状の線引き	
		11	12	罫紙	その他	24.6×35.4×2.0	明治八年(1875)	裏面墨書：「明治八亥一月新調 天徳山学区内用 二枚之内」
⑱豊部極楽寺	11	1	(表)大般若経転読五穀豊登祈禱札 (裏)大般若経転読天下泰平祈禱札	札	32.0×8.2×1.7	近代		両面
		2	(表)婦命日天子守護札 (裏)月光菩薩祈禱札	札	36.3×7.2×4.1			両面
		3	庚申青面金剛祈禱札	札	32.5×5.1×4.8		裏面墨書：種子か	スタンプタイプ
		4	婦命日天子祈禱札	札	31.0×5.6×2.6		裏面墨書：「□□山 □・□□」	
		5	仁王経祈禱札	札	28.0×5.0×4.0		両側面に梵字らしき墨書有り	裏面削り痕から手持ちで使用されたものか？
		6	五社大明神八幡宮守護札	札	24.0×4.8×1.9		裏面墨書：「御祈祷□・□□」	
		7	爲六親眷属大菩提	その他	24.2×4.5×1.8			
		8	奉納四国八十八ヶ所願拜	札	12.2×3.0×2.3			
		9	光明真言曼陀羅・血脈	その他	28.8×30.4×1.7	文化年間頃(1810年代)		血脈では、刻銘の最後から「辨恵・明弁」の住職名を確認
	12	10	弘法大師像	絵像	22.0×13.2×4.8	寛政七年(1795)	裏面：「寛政七卯年 極楽寺 什物 戸田清五郎 板□ 故 谷山 極楽寺什物」	「高野山奥院」部貼付
		11	青面金剛像	絵像	23.3×13.8×2.1			現在は印刷札
		12	(表)牛玉寶印 (裏)奉納折冠丁句集	札 その他	25.0×17.3×4.1		(表)「牛玉/満願寺/寶印」	両面、隅面取り
		13	仏前勤行次第	教典	15.5×22.9×2.3			No13～26の版木はセットとなる 両面版面

保管者	図版	番号	名 称	種類	法 量(cm)	時 代	銘 文	備 考
					縦×横×厚さ			
⑱豊部 極楽寺	13	14	仏前勤行次第	教典	15.6×22.9×2.0			両面
		15	仏前勤行次第	教典	15.5×23.0×2.0			両面
		16	仏前勤行次第	教典	15.6×22.9×1.9			両面
		17	仏前勤行次第	教典	15.6×22.9×2.2			両面
	14	18	仏前勤行次第	教典	15.5×22.9×2.0			両面
		19	仏前勤行次第	教典	15.5×23.0×2.1			両面
		20	仏前勤行次第	教典	15.5×23.0×1.9			両面
		21	仏前勤行次第	教典	15.4×22.9×2.1			両面
	15	22	仏前勤行次第	教典	15.4×22.9×2.0			両面
		23	仏前勤行次第	教典	15.5×22.9×2.3			両面
		24	仏前勤行次第	教典	15.4×22.9×2.1			両面
		25	仏前勤行次第	教典	15.5×23.0×2.1			両面
	16	26	仏前勤行次第	教典	15.5×22.9×2.1			両面
⑲的場 金蔵寺	16	1	祈祷札	札	35.5×10.0×3.5			一部虫損
		2	医王善逝祈祷札	札	40.5×8.0×3.3			一部虫損
		3	真言	札	28.0×6.0×2.1		裏面墨書：判読不明	裏面版彫り中斷痕跡あり、下部小口新規切り落とし
		4	性霊集鈔	その他	23.7×6.4×1.7		裏面墨書：「十六神様」	
		5	本堂再建勸化牒	勸化	21.5×11.5×1.2		「金蔵山薬師如来 本堂再建勸化牒 金蔵寺 執事」	一部虫損、左上及び右下に見当らしき方形枠あり
		6	真言	その他	9.3×1.7×4.2		近代か	スタンプ型
		7	目洗薬御夢想	その他	8.0×5.2×1.5			版木台に埋め込み式、版木台に「金蔵山什物」の墨書あり、朱墨痕跡あり
		8	居士・大師授与証	その他	19.5×22.0×1.2	明治十年(1877)	*別記三	両面 側面に銭形の印判あり(銘判読不明)
		9	口上	その他	22.7×10.8×1.4		「口上/從此方取二遺不申候間御参詣之使ニ/御持参可被下候以上/金蔵山/世話人中」	
	17	10	勸化牒題辞	勸化	21.8×28.0×1.3	近世末	*別記四	虫損顕著、2枚継ぎ板。金蔵寺天保13年(1842)焼失、再建のための勸化版木
		11	金蔵山薬師如来略縁起	縁起	25.5×36.6×1.8	近世後期以降	*別記五	蟻落としによる台木あり
	18	12	牛玉寶印	札	25.3×41.0×4.3		「牛玉/金蔵山/寶印」	文字の浮き彫り高約2cm
		13	役行者像	絵像	22.2×10.3×1.9			朱墨痕あり
⑳的場 蓮華寺	18	1	(表)大日如来守護札 (裏)天魔偈	札	27.5×6.7×2.0			
		2	大日如来法息災祈祷札	札	29.6×4.9×3.1	文政元年(1818)	裏面陰刻：「文政元寅年十月吉日作之蓮花寺」	
		3-1	大日如来護摩供札	札	18.4×5.8×2.3			真鍮版の貼付
		3-2	牛馬絵	絵像	3.5×5.6×2.3			真鍮版の貼付
		4	紫燈護摩供祈祷札	札	17.5×5.1×1.6	現代		ゴム印
㉑寺内 神宮寺	19	1	大日如来守護札	札	26.8×6.5×2.3			
		2	釋迦如来祈祷札	札	21.6×7.4×2.9			
		3	地藏菩薩守護札	札	19.0×6.2×2.9			
		4	主夜神火災盜難除札	絵像	23.0×8.8×1.7		「火災盜難除/おんばさばんえんてい/しゅやじん/そわか/夜三べんづつ/よむべし」 (表)「南無妙法連華経 心願成就」 (裏)「所願具足/南無妙法連華経 南無妙見大士/心大歡喜/能勢郡」	2枚の板を組み合わせ
㉒寺内 妙見堂	19	1	(表)南無妙法連華経 心願成就 (裏)南無妙法連華経 南無妙見大士	札	31.0×7.2×3.5			表面は使用回数が少ないため墨汚れが少ない
		1	紫燈護摩供札	札	25.4×5.5×3.7	近現代		
㉓岩座神 神光寺	19	2	如意宝珠	その他	9.3×7.5×3.65	近現代		
		1	御祈祷之札 蓬萊山常楽寺	札	36.3×9.5×2.0		「御祈祷之札 蓬萊山常楽寺」	
㉔山野部 常楽寺	19	1	御祈祷之札 蓬萊山常楽寺	札	36.3×9.5×2.0		「御祈祷之札 蓬萊山常楽寺」	

保管者	図版	番号	名 称	種類	法 量(cm)	時 代	銘 文	備 考	
					縦×横×厚さ				
㉔山野部 常楽寺	19	2	御祈祷之札 蓬萊山常楽寺	札	36.6×9.7×2.8		「御祈祷之札 蓬萊山常楽寺」		
		3	不動心呪札	札	31.5×6.2×1.8		(表)慈救呪ノウマクサマンダ バザラダンセンダマカロシヤ ダソワタヤラウンタラタカ マン 裏面墨書：「高寺山/正 法院/蓬萊山/常楽寺」		
		4	不動明王護摩供祈祷札	札	30.3×6.0×3.7				
		5	薬師如来守護札	札	28.1×5.9×1.7	天明元年 (1781)	右側面墨書：「天明元丑十一 月量興寺隆英求之老匆五分」、 左側面墨書：「□龍行□□大 坂生丸□阿田北□」	台木に打ち付け、台木裏面： 「播磨国多可郡天田村/高寺 山量興寺」	
		6	五大明王種子	札	8.0×5.2×1.9			五大明王（不動・降三世・ 軍荼利・大威徳・金剛夜叉）	
		7	朱印（スタンプ型）	その他	4.9×4.9×1.1		把手上面陰刻：「上」		
		8	奉納経	その他	4.9×2.2×2.5			上側を表す見当（孔）あり	
		9	日天子祈祷札	札	28.5×4.0×2.1				
	20	10	日天子祈祷札	札	28.2×4.3×1.6				
		11	月天子祈祷札	札	28.3×4.5×2.5		左側面墨書：判読不明		
		12	仁王般若経祈祷札	札	28.2×4.3×1.6				
		13	(表)南無阿弥陀仏日本廻国札 (裏)大乘妙典六十六部日本回 国札	札	25.3×5.2×1.2		(表)「天下和順/南無阿弥陀仏 日本廻国/日月清明 願主」 (裏)「天下和順 備中窪屋郡/ 奉納大乘妙典六十六部日本回 国/日月清明 □□□□」	裏面右下「備中窪屋郡」の 一部及び裏面左下「□□□ □」削り取り	
		14	四国八十八ヶ所遍路札	札	13.9×2.6×0.8		「奉納四国八十八所遍路同 行二人」		
		㉕熊野部 稲荷神社	20	1	牛玉寶印	札	24.0×32.0×3.3		「牛王/稲荷大明神/寶印」
2	如意宝珠			その他	7.7×6.6×5.0				
㉖的場 荒田神社	20	1	荒田神社神璽	札	17.2×3.7×1.8			穿孔2カ所	
		2	荒田大神	札	13.0×3.5×1.3			2ヶ所に穿孔 竹釘遺存	
		3	産土大神壽命長久璽	札	16.4×3.0×1.9			一部虫損、穿孔2カ所	
		4	武運長久璽	札	15.4×3.0×2.0			穿孔2カ所	
		5	荒田神社守護札	札	20.2×4.0×1.8			穿孔2カ所	
		6	大歳神社祈祷神璽	札	26.2×4.5×1.7				

八千代区の版木

保管者	図版	番号	名 称	種類	法 量(cm)	時 代	銘 文	備 考
					縦×横×厚さ			
㉗中村 安海寺	21	1	祈祷札	札	36.3×10.0×1.9		裏面墨書：「妙□」	
		2	仁王経札	札	35.0×7.8×2.8	文化十年 (1813)	側面墨書：「仁王」 裏面墨書：「文化十四年/九月 吉日/量雲書作之□□/安海寺/ (異筆) 安政二卯九月吉日」	
		3	大般若経転読札	札	29.5×6.0×1.6			天船四カ村冬祈祷及び夏祈祷 にて刷られ、配布されている
		4	(表)日天子息災延命祈祷札 (裏)月天子家内安全祈祷札	札	31.9×5.9×4.4		左側面墨書：「金峯山 安海寺」 右側面墨書：「□・・・□安海 寺」	表面の版木は、雨宝童子の掛 け軸をかけ祈祷し、お日待ち や正月明けに希望者に配布し ていた(平成15年頃まで)
		5	仁王経札	札	26.8×6.0×2.1		裏面墨書：「安海寺」	裏面に版木固定孔2カ所あり
		6	十一面観音法祈祷札	札	27.6×4.1×1.8	嘉永七年 (1854)	裏面墨書：「嘉永七稔 金峯山/ □・□/寅七□・・・□安海 寺□□	
		7	十一面観音法祈祷札	札	26.9×3.9×1.4			裏面ノミ跡No 8と合致
		8	日天子息災延命祈祷札	札	26.3×3.7×1.4			裏面ノミ跡No 7と合致
		9	真言札	札	32.0×6.2×1.6			5月、12月の初穂料の札とし て配布されている
		10	二十四大吉牛 三宝荒神札	札	32.5×5.5×1.6			
		11	祈祷札	札	33.5×6.5×3.6	享保十一年 (1726)	裏面墨書：「多可郡金峯山/御 祈祷札判木安海寺什物/細工主 山国臣 五兵衛/享保十一丙午 菊月日」	

保管者	図版	番号	名 称	種類	法 量 (cm)	時 代	銘 文	備 考
					縦×横×厚さ			
⑳中村 安海寺	21	12	(表) 光明真言 (裏) 吉祥浄土變真言	札	25.3×6.0×1.3		表面墨書：「安海寺什」	
		13	十一面観音札	札	9.7×4.0×2.2			
		14	般若十六善神雷除守護札	札	9.5×4.0×2.1			境内に存在する雷除天神の 祠と関係すると考えられる
		15	御夢相黒薬	その他	12.5×12.5×1.9		「一.産前さんご血の道ニよし/ 一.胸より上一切煩ニよし/一. 一切志やう進酒にて御用/御無 相黒薬/油けかふばしき物忌/播 州美養郡本郷庄/鈴礼山正法寺 真如院」	鈴礼山正法寺は三木市に存 在し、安海寺とともに酒見 寺の末寺とされる
		22	16	一夏九旬之間勤行之次第	その他	19.3×15.8×1.8	元禄十年 (1697)	裏面墨書：「□□/式拾八 坂 本/式十□ 中村/三十式 横 屋/三十□ 下村/下三十二横 □□中二十三□□/元禄十丁丑 曆卯日/金峯山 安海寺/安養 院/□□」
㉑上三原 毘沙門堂	22	1	牛玉寶印	札	16.5×20.0×2.8		「牛玉/西光寺/寶印」	全面墨塗り、裏面やりガン ナ様の調整痕あり。十四日 袴で配布
		2	宝珠	その他	5.7×4.7×1.5		把手上面刻印：「上」	上方輪郭部側面削り調整の ため欠損、十四日袴で使用
		3	毘沙門天守護札	札	11.8×3.0×1.7		裏面刻印：「上」の刻印	スタンプタイプか？ 四隅面取りあり
		4	毘沙門天真言	札	19.5×2.6×1.7		裏面刻印：「上」の刻印	スタンプタイプか？ 四隅面取りあり
		5	毘沙門天王祈禱札	札	28.8×6.6×1.8	明治二十四 年 (1891)	裏面墨書：「明治廿四寅/五月 新調/西光寺持也」	十四日袴で配布される
㉒中野間 極楽寺	22	1	伊勢和山極楽寺畧縁記	縁起	24.0×47.5×3.4	宝永八年 (1711)	*別記六	端喰による補強あり
		2	元三大師像 (角大師)	絵像	19.5×12.5×1.9		裏面墨書：「伊勢和山/福寿院」	正月に参拝者に配布
		3	(表) 牛馬安全 大日如来 (裏) 妙見菩薩	絵像 札	13.3×7.5×2.6			表面に厚く墨が残る。
㉓柳山寺 楊柳寺	23	1	牛玉寶印	札	22.9×29.0×4.4		「牛玉/楊柳寺/寶印」	1月5日の鬼祭りで配布
		2	修正会祈禱札	札	40.2×11.0×1.0	文化十二年 (1815)	裏面墨書：「文化十二年/正 月吉日/細工 加東郡小部野 /三右エ門/楊柳寺什物/行事/ 法持院/常順新調」	
		3	日天子息災延命祈禱札	札	30.5×6.2×2.7			
		4	千手観音菩薩三尊	絵像	25.8×14.2×1.6			
		5	千手観音菩薩三尊	絵像	21.4×12.5×1.8			補修痕あり
		6	千手観音菩薩三尊	絵像	18.2×11.7×2.0	現代		真鍮板の貼付
㉔仕出原 薬師堂	23	1	薬師如来御守札	札	13.8×3.8×1.8	文化元年 (1804)	裏面墨書：「菴」・「文化元年 /□月十二日」	虫損顕著、表面に朱墨痕あ り
		2	南無妙見大菩薩御守札	札	17.0×5.2×1.2			
㉕中野間 八幡神社	24	1	厄八幡大神札	札	18.8×4.9×2.4	現代		ゴム印 スタンプタイプ 上方印に鉄
		2	厄八幡神社御鬘角印	その他	6.1×6.1×1.9	現代		朱印
㉖加古川市 尾上神社	24	1	高砂尾上相生霊松辞	札	29.2×24.6×2.5		「高砂尾上相生霊松/年久し具 も/住吉与梨かよひ/奈禮た累 尉姥盤/松も緑と茂耳/この登 志ま天相生乃/夫婦登なるもの を」	一部虫損、彫り残しによる 見当あり
		2	高砂尾上神社実景図	境内図	35.8×48.0×2.0			一部欠損、埋木による補修 あり

別記五 金蔵寺 11

金蔵山薬師如来畧縁起

夫當山本尊は昔代人皇三十七代孝徳帝の御宇当国笠形山尔
涌出し給ふ御長僅丹寸八分にして光明遍く十方越照春就中曾根
浦能海門飛かり甚し具鱗族驚散して釣漁おの徒から利あら須浦人
是越憂て神助を熊野権現尔祈類事日を歴て称んご路也貴哉
谷響をおしま須神即彼峯に至里千草越集て其光を収免給ひぬ

志かうして日幾許那ら須して靈尊此山尔飛移り給へば神亦隨逐し来里
給ふ故丹今猶境内尔熊野権現乃廟宇阿り実尔當山盤幽谷攢靈佛

慈能深重越さとし峻峯疊奇徳驗乃高勝をあらハ須加之澗水澄
清して常に煩惱乃塵越あらひ蒼樹枝を交て瑠璃の色を標せり大医

王終尔此丹止里給ひし事良尔由ある哉然累に其時機根未熟して
渴仰乃人奈く遥丹和銅年中に至り葛城の役小角初て留錫練行し

次天平二年菅原寺能行基菩薩佛光越慕ひ来りて目面頂拜し即
自佛軀越彫刻て彼尊像を其胎中に安置し是を里人丹告て施財を請ひ

佛殿を草創して化縁越結し免里即今能尊像是なり其後叡山乃慈覚大師
来て再興し又正徳二年先住宥尊今の堂宇越建立しぬ自餘古来今

の間碩徳名師跡を連て錫を此峯尔掛士農工商踵越接て所願を満せし
事毛拳にいと満あら須唯来由能大概越記て篤信の人丹告る事志かり

播州多可郡

金蔵山 金蔵寺

別記六 極楽寺 1

播州多可郡伊勢和山極楽寺畧縁起

夫當山者人王三十七代孝徳帝之御宇白雉年中に
法道仙人の開基なり抑法道仙ハ往昔天竺靈
鷲山乃麓より日域尔入當国法華山へとび大非
觀世音の銅像并仏舍利宝鉢を持来して暫く
居を此地尔志め仏閣を立本尊を安置して

一乗の御法を広め其外所々に数多の靈地越見
立伽藍を造立して人天越利益し給ふ當山も

其一なり本尊千手の靈像脇士不動毘沙門開
山法道仙の御作也加之當寺之什物當麻中将

姫浄土乃曼荼羅慈心坊千手の絵像同筆六
道の繪唐の思恭乃筆涅槃像杯数々重宝共

于今有之始開基之比ハ講堂鐘樓文殊樓経蔵
食堂三重乃大塔大中間等薨を並べ坊舎軒於

まじへて仏法槃栄の靈地なり雖然中比天正
年中乱世の時分為兵火烧失して旧跡深く草

生茂昔乃夢ハ絵図に印して一幅の宝物と成纜残る
小堂だに破壊朽損せり此故に師檀是を嘆修營

を調が為に今年本尊乃扉を開き十方の助
成越乞者也志乃旁ハ詣で、結縁志給へ

寶永八辛卯曆三月日

別記四 金蔵寺 10

勸化牒題辭

夫禮當山本尊藥師如來は往昔人皇

三十七代孝徳帝能御宇當國笠形山尔出現

し給ふ靈佛なり略縁起尔詳なり千餘歳の

星霜を經累所天保十三癸寅秋本堂尽ク焼失

せり今般再建の志願ありといえども寺領少も

これなく其上拙僧財産尔乏しく志願成就せん

事難し古禮尔依て十方有信の貴賤財乃

多寡を論セ須喜捨能志越乞ひ佛宇を再

建し如來を安置したてまつらい本尊大悲能

願力尔より衆病悉除の利益を蒙らん事諸人

疑を生春累事奈可禮と云尔

廣大無辺な里依之今志す
の仁あ里て衆生結縁のた免

當山にお以て常光明真言

講信心の輩偏に此講に加

入を希ふ永ク有縁無縁能

追資現当耳富八家運繁榮

商佑万倍百穀成熟を祈らん

かた免に志願の發起勢し

むる毛の也

文政四巳年 吉祥山円満寺

月日

役者

附

聖徳太子

再興助成之者也

弘法大師

別記三 金蔵寺 8

(表)

當山格別之勤功有之当

該家永代居士大姉之称呼

允可候事

明治十年 月 日

金蔵山

金蔵寺

(裏)

當山へ勤功有之当

該一代ヲ限り居士大姉之称

謂允可候事

明治十年 月 日

金蔵山

金蔵寺

開山堂畧縁記

抑當寺中興開山明覚上人の御生縁を尋奉るに河内国父の御名を太王子大運と号し母ハ勝部氏源朝臣時秀の息女なり紀州三都の庄宝光寺尊慶大徳を御師として髪を落夫より高野山江登り龍光院宣宥阿闍梨尔付て専密学を修行有り或日弘法大師の御告を請汝此山に永く住事なか連早く播州尔向て多くの古跡有り是を開基春遍しとの御告に依て先当山へ登り伽藍を建立し其後播丹兩國に七ヶ寺の古跡を再興ありし所に今歴然也又此堂乃御尊像ハ明覚上人四拾貳歳厄年の御姿尔志て御自身調刻なき連玉ふ所の尊像也就中其頃当国の国守ハ姫路の城主池田三左衛門尉照政公の時とかや御城内昼夜数日静謐なら須依而諸国の貴僧高僧へ仰付ら連御祈祷有之といへども猶其崇更尔止事なく実^{さら}に当寺開山明覚上人の徳風を志たひ池田氏より再三御使者を以御祈祷仰越き連々れバ上人固辞春る事なく慶長拾六年正月八日御城内尔て御祈祷有ケ連バ妖懷種々の異想を顕明覚の前に出現春然共明覚の道儀少も違事なく上人曰ク汝照政公へ罪せる事何野里がアル

哉魔障の曰ク此城内に八天塔建立あらバ則何野里かあらん依而此旨を御城主へ申上連ハ当国吉川庄日原氏の番匠ニ申付終尔八天塔建立成就し鬼神を小刑部大明神と祝玉へハ御城安全に納り是によつて先例尔今不怠毎年正月八日姫路御城へ御祈祷の礼相納也皆諸人の知ル事なれハ富に略せしむ也

播州多可郡安田庄

吉祥山 円満寺

常光明真言講録 全

常光明真言講勸誘録
 夫秘密光明真言ハ是萬億無数
 諸佛如来能真言なり此咒越
 一度誦す類毛の八万億無数の
 諸佛歡喜し玉ふ猶を常に
 誦する時ハ万億無量の功德甚
 深也如来肝心の秘密三世
 三切一切能諸仏此咒を誦春る
 力ニ依て速疾に正覚越得玉ふ
 呪や常恒耳誦持する功德

多可町文化財報告19

多可町の版木

2013年3月
多可町教育委員会内
発行 多可町文化遺産活性化実行委員会
〒679-1134 多可郡多可町中区茂利20番地
TEL. (0795) 32-2385
印刷 ウニスガ印刷株式会社

■データー 紙質 表紙 アートポスト 220kg
見返し 色上質 藤色 特厚口
本文 ニューエイジ 57.5kg
図版 ニューエイジ 70.5kg
文字 モリサワ 14級
写真 スキャナー1分解
製本 無線トジ

